

## 和仏法律学校講義録

寺尾, 亨 / 小河, 滋二郎 / 松井, 茂 / 副島, 義一 / 山口,  
弘一 / 秋山, 雅之介

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

3-18

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

53

(発行年 / Year)

1900-10-30

# 和佛法律學校

## 講義錄

第 參 部

第 拾 八 號

憲

法 (自二七七至二九四) 法學士 副島 義一

國際公法 (平時) (自一八〇至一八七)

山口 弘一

國際公法 (戰時) (自二六三至二八八) 法學士 秋山 雅之介

國際公法 (自二二八至二七) 法學博士 寺 尾 亨

警 察 法 (自一九七至二〇四) 法學士 松 井 茂

監獄學提要 (自一四五至一五五) 小河 滋二 郎



090  
1900  
3-1-18

贊ヲ經ヘキートト爲シテ其制定手續ハ實質上ノ法律制定ト異ナルコトナキヲ以テ之ヲ法律ト呼フコトト爲リシナリ即チ議會ノ協贊ヲ以テ定ムト規定スヘキ代リニ法律ヲ以テ定ムト規定シテ而シテ議會ハ立法權ニ參與スト云フ立憲政體ノ大趣旨ニ合スルコトヲ得ト思慮セシナリ此觀念カ獨逸諸國ノ憲法ニ採用セラレ又我憲法ニモ採用セララルコトト爲レリ

我憲法第二章中ニ臣民ノ權利義務ハ法律ノ定ムル所ニ依ルトアリ既ニ法規即チ權利義務ニ關スルコトハ議會ノ協贊ヲ以テ定ムルコトカ一般ノ原則トシテ規定セラレタルトキハ更ニ各箇ノ場合ニ法律ヲ以テ定ムト云ヘルカ如キ規定ノ必要ナキカ如シ然レトモ此第二章中ノ規定ハ臣民カ國家ニ對シテ權利ヲ有シ義務ヲ負フコトヲ規定シ且ツ此義務ヲ課シ權利ヲ制限スルニハ君主カ命令ヲ以テ爲スコトヲ得ス必ス議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定メサルヘカラサルコトヲ規定シテ憲法第九條ノ命令ヲ以テ定ムヘキ規定ニ例外ヲ設ケタルナリ

憲法第九條ニ天皇ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及ヒ幸福ノ増進ノ爲メニ命令ヲ發スルコトヲ得ルコトヲ規定セルヲ以テ君主ハ幸福増進ノ爲メニ臣民ニ對シ

憲 國家ノ作用 立法 法律

ヲ義務ヲ課スルコトヲ得然ルニ國家ハ或事柄ニ付テハ幸福増進ノ目的ノ爲メナルモ仍ホ命令ニテ義務ヲ課スルコトヲ欲セザルコトアリ故ニ斯ル場合ニハ法律ヲ以テ之ヲ定ムト規定シテ議會ノ協贊ヲ經ヘキコトヲ明カセリ憲法第二章ノ規定ハ多クハ此目的ニ出テタルモノナリ故ニ第二章中ノ所謂法律ハ之ヲ形式上ノ意味ニ解セザルヘカラス其他會計検査院ノ組織ハ法律ヲ以テ定ムトアリ此ノ如キ場合ニモ仍ホ形式上ノ意味ニ解セザルヘカラス此等ノ場合ニハ法律ヲ以テスト規定セスシテ議會ノ協贊ヲ經テ定ムト規定セシナラハ文體極メテ穩當ナリシナラン是レ猶ホ國債ヲ起スニハ議會ノ協贊ヲ經ヘシト規定シアルカ如ク規定スヘキモノナルニ法律ヲ以テ定ムト規定セザナリ

(ポルンバック<sup>レ</sup>及ヒ<sup>レ</sup>アルンド等ハ普漏西憲法ノ解釋トシテ法律ハ總テ形式上ノ意味ヲ有スルモノニシテ而シテ立法ノ範圍ニ付テハ原則的ノ規定ナク唯各箇ノ事柄ヲ列舉シタルノミナリ而シテ君主國ニ於テ君主ハ完全ナル權限ヲ有ス)云フ推定ヲ受クルモノナレハ苟モ制限ナキ以上ハ君主ハ自由ニ命令ヲ以テ規定スルコトヲ得憲法ハ公法ヲ編纂シタルモノニアラサレハ君主ニ屬スル權

利ヲ列舉シ盡シタルモノニアラス故ニ君主カ憲法以前ニ於テ既ニ有シタル命令權ハ憲法ニ於テ制限セザル限リハ之ヲ自由ニ行フコトヲ得ト論セリ若シ憲法ニ於テ全ク實質上ノ法律ヲ認メスト爲ストキハ此說ハ一理ナキニアラス憲法ハ唯形式上ノ法律ノ成立方法ヲ規定シタルニ過キスト爲ストキハ憲法ニ法律ヲ以テ定ムト規定セル以外ノ事項ニ關シテハ必スシモ法律ヲ要スルモノニアラス命令ヲ以テモ規定スルコトヲ得ト謂ハサルヘカラス何トナレハ若シ然ラストセハ法律ノ規定事項ヲ列舉スル必要ナケレハナリ

或ハ此說ニ對シテ繼令法律ヲ以テ悉ク形式上ノ意味ニ解スルモ憲法上法規ノ規定事項以外ノ事項ヲ當然命令ニテ規定スルコトヲ得ト云フ論決ヲ生セス何トナレハ憲法ニ於テハ命令ノ目的ヲ記載セリ即チ法律ヲ執行スル爲メニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メニ命令ヲ發ストアリ故ニ此目的以外ニハ命令ヲ發スルコトヲ得スト曰ヘリ然レトモ立法ニ付テ原則上ノ規定ナシトスル以上ハ命令ノ範圍ハ此目的ニ限ルモノト謂フコトヲ得ス何トナレハ此規定ハ憲法ニ於テ或事項ニ關シテハ法律ヲ以テ定ムトアリ此等ノ



事項ヲ規定セル法律ニ於テ執行ニ關スル規定ノ欠缺セル場合ニ執行命令ヲ發スルコトヲ得ト解スルコトヲ得ルヲ以テナリ憲法ニ法律ヲ以テ定ムトアルヲ以テ執行ニ關スルコトモ命令ニテハ規定スルコトヲ得サルカノ疑ヲ生スルヲ以テ此疑ヲ生セザラシメンカ爲メニ執行命令ヲ發スルコトヲ得トノ規定ヲ設ケタリト解釋スルコトヲ得レハナリ

又憲法第二章ニ於テハ臣民ノ權利義務ト題シ此章中ノ箇條ニ於テ臣民ノ國家ニ對スル權利義務ヲ列擧セリ故ニ一見スレハ臣民ノ國家ニ對スル權利義務ハ此列擧シタル箇條ニ限リ他ニ權利ヲ負フコトナキカ如ク見ユ且ツ此章中ニハ多クハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ法律ノ範圍内ニ於テ法律ニ依ル等ノ規定アルユハ臣民ノ國家ニ對スル權利義務ノ範圍ヲ定ムルハ全ク法律ノミナルカ如キ觀アリテ命令ニテハ全ク之ヲ規定スルヲ得サルカ如ク見ユ故ニ憲法第九條ニハ安寧秩序ノ保持幸福増進ノ爲メナラハ猶ホ命令ヲ以テモ臣民ノ國家ニ對スル義務ヲ科シ又或場合ニハ國家ニ對シ權利ヲ有ストノ規定ヲ設クルコトヲ得ヘキコトヲ規定シタルモノナリ即チ憲法第九條ノ規定ハ主トシテ憲法第二章トノ

關係ノ爲メニ設ケタル規定ナリト解スルヲ得ヘシ憲法第九條ハ斯ル目的ノ爲メニ設ケタル規定ニシテ命令ノ唯一ノ目的ヲ規定シタルモノニアラサルユヘ此ヨリ以外ノ事項ニ關シテ命令ヲ發スルハ憲法ノ決シテ禁スル所ニアラスト解釋スルモ亦強テ異論ヲ挾ムコトヲ得サルヘシ故ニ若シ法律ヲ全ク形式的ノ意義ニ解セハ憲法ニ法律ヲ以テストノ制限ナキ事項ニ關シテハ如何ナル事モ命令ニテ規定シ得ルコトト解釋セサルヘカラサルニ至ルヘシ然レトモ是レ一般ノ立憲政體ノ原則ニ反スルノミナラス亦我憲法ノ決メテ認メタル原則ニアラサルナリ

或ハ法律トハ國家最強ノ意思ナリ即チ一方ニハ法律ヲ廢止變更シ他ノ一方ニハ法律ヲ以テスルニアラサレハ廢止變更スルコト能ハサル國家ノ命令ナリ而シテ此定義ハ憲法ニ於テ始メテ定マリタルニアラスシテ既ニ公文式ニ於テ一  
定セリ憲法ハ唯之ヲ費用セルノミト論スル者アリ

法律ハ國家最高ノ意思ナリトノ說ハ憲法上ニ於テハ全ク誤謬ノ說トシテ之ヲ排斥スルヲ得ス然レトモ之ヲ公文式ニ據リ證明セントスル如キハ全ク根據ナ

キ主張タラスンハアラス專制國ニ於テモ若シ法律ハ命令ヲ發スル機關ヲ異ニス  
 ルトキハ兩者ノ間ニ效力ノ差異アリト謂フコトヲ得ヘキモ今然ラスシテ等シ  
 タ君主ノ發スル命令ノ效力ニ強弱ノ差アリトハ荷モ明文ノ規定ナキ以上ハ之  
 ヲ推測スルヲ得タルナリ又總令效力ニ強弱ノ差異アリトスルモ何故ニ法律カ  
 勅令ヨリ強キ力ヲ有スルカラ推測スルヲ得タルナリ此點ニ付テハ憲法義解ノ  
 註釋ハ其當ヲ得タルモノト信ス曰ク法律ト勅令トハ其名稱ニ依リテ以テ效力  
 ノ輕重ヲ區別スヘカラサルハ公文式發布以前ノ布告ト布達ト區別ナキニ同シ  
 ト是レ吾人ト其見解ヲ同シウスルモノト謂フヘシ且ツ公文式發布後ニ於ケル  
 實例ヲ見ルモ兩者ノ間ニ區別アルヲ發見スルヲ得タルナリ例ヘハ登記法公證  
 人規則ノ如キハ法律トシテ發シ版權條例所得稅法監獄則逃亡犯罪人引渡條例  
 ノ如キハ勅令ヲ以テ發セリ今此等ノ法令ハ立法上事ニ輕重ノ差アリト爲スヲ  
 得ス然ルニ公證人規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ變更スルヲ得ス逃亡犯罪人引渡條例  
 ハ勅令ニテ之ヲ變更スルヲ妨ケスト爲ス如キハ少シモ根據ナキ主張タルニ過  
 キサルナリ

且ツ憲法發布以前ニ於テ法律ノ定義ハ國家最強ノ意思ナルコトニ一定ストス  
 ルモ法律ニテ其法律ノ變更廢止ヲ命令ニ許容セタル場合ニハ其法律命令ノ區  
 別ハ少シキ之ヲ立ツルヲ得タルナリ何トナレハ總令此命令ハ法律ニ基キテ發  
 スルモノナルニモ兎ニ角其法律ヲ變更廢止スルコトヲ得即チ此法律ハ命令  
 ニテ變更廢止セララルコトナルカ故ニ此場合ノ命令ハ國家ノ最強ノ意思即チ  
 法律ト爲ルト云ハサル限リハ法律ハ國家最強ノ意思ト視ルヲ得タルナリ且ツ  
 此命令ハ法律ヲ變更廢止スルヲ得且ツ法律ヲ變更廢止シ得ル效力ヲ有スルモ  
 ノ即チ命令ヲ更ニ廢止變更シ得ルモノハ即チ命令亦最強ノ意思ト謂ハサルヘ  
 カラサレハナリ

以上述ヘタル如ク法律ト命令ト效力ノ差異ハ公文式ノ上ニ於テ之ヲ知ルヲ得ス  
 ト爲ストキハ唯憲法ノ上ニ於テノミ之ヲ區別シ得ヘキノミ憲法ノ上ニ於テ法  
 律ハ命令ヨリモ強キ力ヲ有スル國家ノ意思ナリト謂フコトヲ得然レトモ法律  
 カ最強ノ力ヲ有スルハ何故ナルヤ蓋シ法律ハ君主獨リ專ラ之ヲ規定シタルモ  
 ノニアラス議會ノ協贊ヲ經タルモノナルニ由ル議會ノ協贊ヲ經タル命令ハ復

タ議會ノ協賛ヲ經タル命令ニ依ルニアラサレハ之ヲ變更廢止スルヲ得サルハ  
 則チ或事項ノ規定ニ議會ノ協賛ヲ經ヘキコトヲ憲法ノ規定シタル當然ノ結果  
 ナリ果シテ然ラハ此定義ハ法律ハ議會ノ協賛ヲ經タル命令ナリト云フニ歸ス  
 即チ此定義ハ法律ヲ形式的ニ定義シタルモノト全ク同一ナリトス  
 又憲法發布後ニ於テモ緊急勅令ハ法律ヲ變更廢止スルコトヲ得又緊急勅令ヲ  
 變更廢止スルニモ緊急勅令又ハ法律議會不承諾ノ場合ハ特別トスルモヲ要ス  
 トスレハ緊急勅令モ亦國家最強ノ意思則チ法律ナリト謂ハサルヘカラス  
 以上述フル所ニ依レハ我憲法ニ於テハ歐羅巴ノ所謂立憲政體ノ主義ヲ採用シ  
 タルモノニシテ原則トシテハ法律トハ法規ヲ規定シタル國家ノ意思ナリ憲法  
 第五條ハ此法規ヲ制定スルノ權ハ天皇カ議會ノ協賛ヲ以テ之ヲ行フヘキコト  
 ヲ規定シ第六條ハ天皇ハ法規ノ規定ヲ裁可スルコトヲ規定シ第三十七條ハ法  
 規ヲ制定スルニハ議會ノ協賛ヲ經ヘキコトヲ規定シタルナリ其他ノ場合ニ法  
 律ヲ以テ定ム等トスルハ此法規ヲ制定スルト同一ノ手續ヲ以テ定ムトノ意義  
 ニ解スヘシ故ニ我憲法上ニ於テ等シク法律トアルモ或ハ實質上ノ意義ヲ有シ

或ハ形式上ノ意義ヲ有スルモノト解セサルヘカラスト信ス

## 第二節 法律制定ノ手續

法律制定手續ノ第一ニ來ルヘキモノハ法律案ノ提出ナリトス憲法第三十八條  
 ニ依レハ法律案提出權ハ兩議院及ヒ政府ニ屬ストアリ固ヨリ兩院ノ議員ハ議  
 案ヲ發議スルコトヲ得ヘシ然レトモ議員ノ議案發議ハ憲法上ノ法律案提出ト  
 ハ相異ナルモノニシテ唯法律案提出ヲ發議スルニ止マルモノナリ兩議院カ法  
 律案提出權ヲ有スルモ毫モ天皇ノ立法權ヲ掌ルコトノ妨ケト爲ルコトナシト  
 ス何トナレハ是レ唯君主ノ立法權行使ニ前以テ協賛スルモノタルニ外ナラザ  
 レハナリ法律案提出權ハ兩議院政府ニ平等ナル原則トス  
 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中再ヒ提出スルコトヲ得サルコ  
 トハ憲法第三十九條ノ規定スル所タリ茲ニ疑ハシキハ或議員カ法律案ヲ發議  
 シ而シテ其院ニ於テ之ヲ否決シタルトキハ再ヒ之ヲ提出スルヲ得サルカ如何  
 然レトモ憲法ニハ法律案提出權ハ政府又ハ兩議院ニ屬スト旨ヒテ兩院ノ各議

員ニ屬スト言ハス故ニ各議員カ總令法律案ヲ提出スルモ是レ法律案提出ニア  
 ラスシテ唯法律案トセシコトヲ發議スルモノナリ今議院カ此發議ヲ否決スル  
 トキハ法律案ナルモノハ成立スルコトナシ法律案ハ議員ノ發議ヲ可決シタル  
 トキ始メテ成立スルナリ故ニ此法律案ヲ他院ニ移シテ否決シタルトキ即チ  
 同會期中再ヒ之ヲ提出スルヲ得サルモノト謂ハサルヘカラス之ニ反シ一院ノ  
 議員カ法律案提出ヲ發議シ而シテ否決シタル場合ニハ法律案ノ否決ニアラ  
 サルユヘ再ヒ同會期中之ヲ提出スルモ憲法ノ許ササル所ニアラス又政府ノ提  
 出シタル法律案ハ兩院ノ内一院ニ於テ否決セラレタルトキハ之ヲ再ヒ提出ス  
 ルヲ得サルナリ

議院法第三十二條ニ依レハ兩院ノ議決ヲ經テ上奏シタル議案ハ次ノ會期マテ  
 ニ裁可ヲ與フルト否トヲ定メラルルユヘニ同會期中ニ於テ上奏シタル議案ト  
 同一物ヲ再ヒ提出スルヲ得サルナリ何トナレハ次ノ會期マテハ議案成立スル  
 ヲ以テナリ若シ次ノ會期マテ公布アラザルトキハ裁可ナキモノト看ルヲ得  
 ク隨テ議案消滅セルユヘ又之ヲ提出スルコトヲ得ルナリ

法律案議院ニ提出セラレタルトキハ其議院ハ修正シ又ハ可否ノ議決ヲ爲スコ  
 トヲ得此修正議決權ニ付テハ貴衆兩院共ニ其權限ヲ異ニスルコトナシ又兩議  
 院ノ一ヨリ他ニ法律案ヲ提出シタルトキハ其法律案可決ノ際既ニ協賛シタル  
 モノト爲スコトヲ得ルヲ以テ再ヒ其院ノ議決ヲ經ルヲ要セザルナリ政府ハ何  
 時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得レトモ兩議院  
 ハ既ニ一タヒ議決シタル議案ヲ他ニ移シタルトキハ再ヒ之ヲ修正スルノ途ナ  
 キヲ以テ之ヲ修正スルコトヲ得ス又議案提出ノ後ハ之ヲ撤回スルコトヲ得サ  
 ルナリ

兩議院ノ議決ヲ經タル法律案ハ之ヲ上奏ス上奏アレハ天皇之ヲ裁可ス法律上  
 裁可ハ如何ナル性質ヲ有スルカ蓋シ我憲法ニ依レハ立法權ハ天皇ニ專屬ス天  
 皇ハ即チ立法機關ナリ故ニ天皇ノ意思ノ加ハルヲ以テ始メテ法律存スルナリ  
 此天皇意思ノ始メテ表ハルルハ即チ裁可ナリ故ニ裁可ハ立法法唯一ノ要素ナリ  
 裁可ハ即チ立法ナリト謂フヘシ天皇此裁可ヲ爲スニハ其法律案カ法律上一  
 定ノ要件ヲ充タスヤ殊ニ議會ノ協賛ヲ得タルキ否キヲ檢査シ其要件ヲ具備シ

ルノ確信ヲ有スルニ至リテ之ヲ爲ササルヘカラス天皇此裁可ヲ爲スニハ審署ニ依ル審署トハ帝國議會ノ議決シタル法律案ニ依リテ原本ヲ作リ其前文ニ於テ裁可ヲ與フル旨ヲ宣言シ御名ヲ署シ御璽ヲ鈐シ以テ法律案ヲ確定ノ法律ト爲スヲ謂フ此裁可ト審署トハ獨逸帝國ノ如ク之ヲ司ル機關ノ異ニスル國ニ在リテハ其區別分明ナリ蓋シ獨逸帝國ニ於テハ聯邦議會カ即チ立法機關ナルヲ以テ法律ノ裁可ヲ爲シ獨逸皇帝ハ立法機關ニアラサルヲ以テ裁可ヲ爲スヲ得ス唯審署スルノ職權ヲ有セルヲ以テナリ我國ノ如キ君主國ニ於テハ此兩者ヲ區別スルヲ得ス裁可ハ即チ法律案ニ遵由ノ效力ヲ附シ之ヲ確定法律ト爲ス意思發表ニシテ此意思發表ハ審署ナル方法ニ依リテ之ヲ爲スニハ實際上形式上之ヲ區別スルヲ得サルナリ

裁可アレハ茲ニ法律存シ即チ國家意思存在スルニヘ天皇ト雖モ隨意ニ其一方ノ意思ノミヲ以テ之ヲ取消スヲ得ス必ス之ヲ公布セサルヘカラス公布ハ國家ノ意思ヲ外部ニ對シテ宣言スル所以ノモノニシテ公布アリテ始メテ臣民ニ對シ拘束力ヲ生スルモノトス或ハ法律ハ公布ニ依リテ始メテ存在シ公布前ニハ

未タ法律ナルモノ存在セスト云フ者アレトモ是レ法律ノ成立ト法律ノ拘束力トヲ混シタルモノナリトス立法機關カ裁可ニ由リテ法律案ニ遵由ノ效力ヲ付シタル以上ハ法律ハ既ニ存在シタルモノト謂ハサルヘカラス固ヨリ天皇ハ其既ニ裁可シ尙ホ未タ公布セサル法律ヲ塗抹シテ裁可ヲ取消スコトヲ得ヘシ然レトモ是レ唯事實上之ヲ爲シ得ルト云フニ過キスシテ法律上之ヲ適法ノ行爲ト謂フコトヲ得サルヘシ尙ホ是レ裁判官ト書記ト一致シテ當事者ノ闕席シタル場合ニ宣告シタル判決ヲ隨意ニ取消スモ事實上之ヲ爲シ得ルト云フニ過キスシテ法律上之ヲ適法ノ行爲ト爲スヲ得サルト同シ故ニ天皇ハ法律上公布前ニ其一タヒ與ヘタル裁可ヲ隨意ニ取消スヲ得ス若シ公布ヲ以テ始メテ法律存在スト云ヘハ何故ニ憲法カ故ラニ裁可ナル權限ヲ與ヘタルヨリ觀レハ法律ヲ知ルヲ得サルヘシ憲法カ公布ノ外ニ裁可ナル權限ヲ與ヘタルヨリ觀レハ法律ハ裁可ニ由リテ存在スト謂ハサルヘカラス然レトモ裁可ノミニテハ法律ハ唯存在成立シタルノミニテ外部ニ對シテ拘束力ヲ生スルコトナシ是レ公布ヲ要スル所以ナリ法律ハ公布ニ由リテ始メテ臣民又ハ官府ニ拘束力ヲ生ス故ニ

法律元來ノ性質ヨリ云ヘハ公布ノ時ヨリ實施ノ效力ヲ有スヘキモ我現行法ニ於テハ別段ノ規定ヲ設ケタリ法例第一條ニ依レハ法律ハ公布ノ日ヨリ二十日ヲ經テ施行ストアリ然レトモ各法律ニ於テ特別ノ施行期限ヲ設ケルコトヲ許セリ

茲ニ裁判官ノ法律審査權ニ付キ少シク述フル所アルヘシ凡ソ形式上法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ天皇ノ發シタル國家ノ意思タリ故ニ協賛ナク天皇一方ノ意思ニ出ツルモノハ之ヲ形式上法律ト謂フヲ得ス蓋シ此協賛ヲ議會ニ許ス所以ハ議會ノ特權ヲ保護スル爲メニアラスシテ議會ヲシテ國家意思成立ニ參與セシメ以テ主觀的ノ天皇ノ意思ヲ客觀的ノ國家意思ト爲ラシムルニ在リ國家ニシテ法律成立即チ國家意思ノ成立ニ付キ憲法上一定ノ規定ヲ設ケタル以上ハ若シ此規定ニ違反シテ發表シタルモノハ之ヲ有效ノ國家ノ意思ト謂フヲ得サルヘシ抑モ裁判官ハ唯存在シ且ツ有效ノ法律ヲ適用セサルヘカラス故ニ或法律ノ存在スルカ又ハ有效ナルカヲ検査セサルヘカラス凡ソ裁判官ノ適用スル法ニ習慣法アリ成文法アリ其習慣法ヲ適用スルニ當リ

ヲハ果シテ其習慣法トシテ存在スルヤ否ヤヲ検査セサルヘカラス即チ習慣法ノ實質即チ永年ノ法トシテノ慣行存スルヤ否ヤヲ検査セサルヘカラスハ各學者ノ汎ク認ムル所タリ然ラハ何故ニ成文法ニ對シテハ實質上ノ検査ヲ爲スヲ得サルヤ殆ト理會ニ苦ム所タリ裁判官ハ唯法律ヲ適用スヘシ外觀上法律ト見ユル假裝ノ法律ヲ適用スルヲ得サルナリ故ニ若シ天皇ノ發シタル命令ニシテ立法ノ手續ヲ履マスシテ法律ト名ケタルモノハ憲法違反ノ手續ニテ成立シタルモノニシテ又拘束力ヲ有スルコトナシトス隨テ立憲制ノ原則ヨリ出ツル當然ノ結果トシテ裁判官ハ其適用スヘキ規定ヲ検査スルコトヲ得ヘシ此検査ヲ爲スニ當リテハ獨リ其法律ノ外形上ノ要件ヲ具備セルヤ否ヤヲ検査スルニ止マラス尙ホ其憲法上ノ方法ヲ履行シテ成立セルヤ否ヤヲ検査セサルヘカラス抑モ裁判官ハ法律ニ服従スルモノニシテ法律ヲ支配スルモノニアラス然レトモ唯真正ノ法律ニ服従スヘク假裝ノ法律ニ服従スルヲ要セサルナリ或ハ若シ裁判官ニシテ或法律ノ憲法ニ從ヒテ成立セタルヤ否ヤヲ検査スルコトヲ得ルトスレハ裁判官ハ立法權ノ上ニ立ツコトト爲ルヘシト云ヒ又ハ裁判官ノ檢

查權ハ君主制ノ原則ト相反スト曰フ者アレトモ等シク取ルニ足ラサルナリ何トナレハ若シ裁判官ニシテ真正ノ法律ヲ適用セサルノ自由ヲ有ストスレハ裁判官ハ即チ立法ノ上ニ在リト謂フヲ得レトモ憲法上ノ手續ヲ履マシテ成立シタル法律ハ真正ト謂フヲ得サルユヘ之ヲ適用セサルモ決シテ立法權ノ上ニ在リト謂フヲ得サルヲ以テナリ「バンド」曰ク天皇ハ審判大臣ハ副審判大臣ハ協贊ヲ經タル旨ヲ證明セルニ裁判官ハ尙ホ之ヲ審査スルヲ得ルトスレハ是レ裁判官ハ天皇大臣ノ上ニ在ルナリ元來此審判官ハ君主ノ一ノ職權ニシテ法律ノ適法ニ成立セル所以ヲ證明スルモノナレハ裁判官ハ又之ヲ審査スルヲ得サルナリト「ダールベル」之ニ反對シテ曰ク裁判官カ此検査ヲ爲スニ當リ君主又ハ大臣ノ親署又ハ副署アレハ先ツ之ニ重キヲ置カサルヘカラス君主ハ其公布ノ形式ニ依リテ其憲法ノ手續ヲ履ミテ成立シタルコトヲ證明ス國家最高機關ノ此證明アレハ裁判官ハ先ツ之ヲ遵奉セサルヘカラス然レトモ此證明ノ效力ハ決シテ無限ノモノニアラハ若シ帝國議會ニシテ斯ル協贊ヲ爲セシコトナク又ハ議決ノ不適法ニ生シタルコトヲ主張シ又ハ威命令ノ議決ヲ經シテ發セラ

レタルコトニ爭アルトキハ裁判官ハ獨リ君主ノ證言ニ從フヘカラス其良心ニ從ヒテ眞偽ヲ檢セサルヘカラス且ツ裁判官ノ検査ハ常ニ議會ノ主張ヲ待テテ著手スヘキニアラス或公ノ記録又ハ明白ナル法文ト矛盾スルトキハ検査ヲ爲スヘキコト唯リ其權利ナルノミナラス又其責任ニ對スルノ義務ナリト曰ヘリ故ニ此ノ如キ場合ニ縱令公布ノ形式上ニハ議會ノ協贊ヲ經タル旨ノ記載アルモ公ノ記録上ノ事實等ニ據リ其協贊ノ事實上存セサルコトヲ明カニスルトキハ此ノ如キ規定ハ之ヲ假裝ノ法律トシテ適用スヘカラサルナリ法律ノ前文ニ議會ノ協贊ヲ經タル旨ヲ記載アルモ是レ唯適法ナリトノ事實上ノ推定ヲ生シ得ヘキモノタルニ過キスシテ法律上ノ推定ノ如ク他ノ反證ヲ許ササルモノト異ナルモノト知ラサルヘカラス

或ハ曰ハン若シ裁判官ニ法律ノ適法ニ成立シタルヤ否ヤヲ検査スルノ權利アリ義務アリトスルトキハ議會ノ議員ノ選舉議會ニ於ケル出席議決ノ定足數等ノ適法ナリシヤ否ヤヲモ亦検査セサルヘカラス然レトモ斯ルコトヲ如何ニシテ検査シ得ルカト此非難ニ對シ「グナイスト」ハ答ヘテ憲法ハ各議院ニ其組織購

員資格及ヒ其議事規程等ニ付キ確定ノ決議ヲ爲スヘキ權限ヲ認メタリ故ニ議會ノ決議ノ成立ハ議會ノ内部ノ事ニシテ裁判官ハ之ニ際テ容ルルヲ得ナルナリト曰ヘリ然レトモ此辯護ニハ同意スルヲ得ス各議院ハ其議員ノ資格出席員及ヒ議決ノ定足數ニ付キ當ニ確定ノ決議ヲ爲スモノニアラス議院法第七十八條ニハ衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付キ異議ヲ生ゼタルトキハ之ヲ議決ストアレトモ異議ナケレハ固ヨリ之ヲ議決スルコトナシ又憲法第四十六條ニハ議員三分ノ一以上出席スルニアラザレハ議決ヲ爲スコトヲ得ストアリ又其第四十七條ニハ「議事ハ過半數ヲ以テ決ス」トアリテ議院ハ別ニ三分ノ一以上出席アリタリ過半數ヲ以テ議決シタリ等ノ決議ヲ特別ニ爲スコトハ固ヨリ之ナシ故ニ確定ノ決議ヲ爲スニハ裁判官ハ之ニ際テ容ルルヲ得ストノ主張ハ其論據ナキモノトス唯議院ニ於テ其議員ノ資格ニ異議ヲ生セス又議員出席ノ定足數ニ異議ヲ生ゼサリヤトキハ此等ノ事ニ關シテハ缺點ナシトノ推測ヲ爲スヲ得ヘシ然レトモ是レ唯事實上ノ推測タルニ過キスシテ法律上ノ推測ニアラザルヲ以テ議員ノ速記録議事録又ハ其他ノ事情ヨリシテ議院ノ資格ニ欠缺アルコト定

第一說 此說ニ依レハ破産國ノ臣民カ外國ニ於テ有スル財産ハ其所謂在國政府ノ爲メニ沒收セラレルヲ妨ケスト云フニ在リ此說ハ「グロチューズ」以來多ク唱ヘラレタル所ニシテ就中「グロチューズ」ノ說ニ依レハ債務國ノ臣民ハ本國ノ債務ヲ擔保スルモノナリ故ニ債務國ノ臣民カ財産ヲ沒收セラレルハ保證ノ義務ヲ履行シタルニ過キスト又「パットナル」曰ク臣民ノ財産ハ即チ國家ノ財産ナルカ故ニ臣民ノ財産ヲ沒收スルハ債務國ノ財産ヲ沒收スル所以ナリト然レトモ此說ハ内外人平等主義ニ抵觸スルモノナリ何トナレハ今日ノ學說竝ニ各國立法例ノ方針トスル所ハ私權ノ享有ニ付テハ內國人モ將タ外國人モ同等ナルヘント云フニ在リ蓋シ私權ハ人類カ生存ヲ爲ス爲メニ缺クヘカラサルモノニシテ此必要ハ國ノ内外ニ於テ異ナルモノニ非サレハナリ故ニ外國臣民ノ財産ヲ破産國ノ公債ノ爲メニ沒收スルハ外國ノ臣民ヲ內國臣民ニ比シ劣等ノ地位ニ陷ルルモノナリ是レ何レノ國ノ法律ニ依ルモ臣民ハ其國ノ負擔シタル債務ヲ擔保スル義務ナケレハナリ況ヤ第一說ハ外國人ヲシテ自由ニ生活ヲ爲スコトヲ妨クルモノナリ何トナレハ外國人ハ何時本國ノ破産ノ爲メニ財産ヲ沒收キ



ラルルヤ圖リ知ルコトヲ得サレハナリ羅馬法ハ既ニ國家ノ債務ニ對シテ人民  
 カ之ヲ擔保スル義務ナキコトヲ定メタリ寺院法モ亦同一ノ精神ナリキ今日ニ  
 於テハ「マツセーイ」如キ又第一說ヲ批難セリ  
 第二說 此說ニ依レハ破産國カ國際裁判所ノ判決ニ服セザル場合ニ於テ國際  
 法上重大ナル罪ヲ犯シタルモノナルカ故ニ之ニ對シテ總テノ強制手段ヲ實行  
 スルコトヲ得ヘシ之ニ反シテ破産國カ外交上ノ抗議ニ應セザル場合ニ於テハ  
 其罪重キモノニ非ス何トナレハ破産國ハ人ノ身體生命ヲ傷害シタルモノニ非  
 スシテ單ニ債權者ノ金錢上ノ利益ヲ侵害シタルニ過キス故ニ人ニ對スル救濟  
 手段モ亦嚴酷ニ失セザルコトヲ要ス隨テ報復以外ニ於テ實行スヘキモノハ單  
 ニ消極的ノ復仇アルノミ蓋シ消極的ノ復仇トハ債權者ノ本國カ條約上履行ス  
 ヘキ義務ヲ怠ル類ヲ云フモノナリ又報復ノ手段トシテ外國債券ノ驅逐ヲ正當  
 ナリト云ヘリ此方法ハ或程度マテ債權者本國ノ目的ヲ滿スコトヲ得ルニ過キ  
 ス何トナレハ破産國ノ債權者カ債券ノ所有者ナル場合ニ對シテノミ破産國政  
 府ハ苦痛ヲ感スヘシト雖モ若シ破産國ノ臣民カ債券ノ所有者ニ非ザルトキハ

債券ノ驅逐ハ何等ノ效力ナクレハナリ

予ヲ以テ之ヲ觀レハ國家破産ハ國際法上ノ不法行為ナルカ故ニ普通ノ不法行  
 爲ニ對スル救濟手段ハ總テ破産ニ對シテモ之ヲ實行シ得ヘキモノトス即チ報  
 復ハ勿論積極的及ヒ消極的ノ復仇ト雖モ之ヲ實行シ得ヘキモノト信ス「タル  
 プ」一派ノ學者カ單ニ消極的ノ復仇ヲ認ムル理由ヲ知ルニ苦ム然レトモ人民ノ財  
 産ニ對シテ復仇ヲ爲スカ如キハ過失ナキ者ノ利益ヲ剝奪スルモノニシテ全ク  
 謂レナキコトト信ス而シテ積極的復仇ヲ實行セラルヘキ財產ハ必ス國家ノ財  
 産タルコトヲ要スルカ故ニ復仇ヲ實行スルコトヲ得ヘキハ範圍ハ實際狹小ナル  
 ヲ免レス例ヘハ自國ノ領海内ニ碇泊スル破産國ノ官船ノ如キ之ヲ差押フルニ  
 於テハ往往債權者ノ請求ヲ滿タスニ十分ナリト雖モ右ノ官船カ第三國ノ領海  
 ニ在ル場合ニハ之ヲ差押フルコト能ハス又葡萄牙カ破産ヲ爲セシトキ佛國ノ  
 一雄誌ハ殖民地占領論ヲ唱ヘテ佛國ノ輿論ヲ動カシタルコトアリシカ佛國政  
 府ハ遂ニ之ヲ實行スルニ至ラザリキ要スルニ殖民地ヲ占領スルカ如キハ之ヲ  
 以テ戰爭ノ開始ト見ルコトヲ得ヘキカ故ニ佛國政府カ之ヲ實行セザリシハ故

ナキニ非ス其他破産國ニ對スル平時封港ノ如キモ破産國ニ對スル良好ナル強制手段ナルヘシ

此ノ如ク國際法ノ解釋トシテハ國家破産ニ對シ以上ノ三手段ヲ實行スルコトヲ得ヘシト雖モ之ヲ圓滑ニ實行シ得ヘキヤハ一問題ナリ蓋シ國際的關係ノ錯綜セル今日ニ於テ單ニ債權者ノ利益ヲ保護スルカ爲メニ本國政府力以上ノ手段ヲ實行スルヲ得ルハ容易ノ業ニ非サレハナリ故ニ英國ノ學者カ國家ノ破産ヲ以テ一ノ政利ナリト斷言セシハ或程度マテ異理ヲ包含セルモノト謂フヘシ蓋シ國家破産ニ對スル先例ヲ觀ルニ破産國ハ之カ爲メニ亡滅ヲ招カスシテ債權者ノ本國政府ハ債權者ノ利益ヲ十分ニ保護スル手段ヲ實行セシモノナキヲ見テ知ルヘシ

尙ホ最後ニ埃及ノ公債整理ノ實況殊ニ同國ノ破産ニ對スル處分ノ實況ヲ紹介スヘシ千八百七十六年埃及ニ於テ始メテ混合裁判所ヲ設置セシカ其裁判所ハ二審級ニシテ第一審級並ニ第二審級共ニ之ヲ構成スル裁判官ノ多數ハ外國人ナリ埃及政府ハ外國政府ノ推薦ニ係ル者ヲ必ス裁判官ニ任命スル義務アリ抑

モ此裁判所ハ埃及國ノ法律並ニ財政ノ不信用ヨリ生ズタルモノニシテ之ニ依リテ歐洲諸國ノ債權者ハ埃及政府ニ對スル請求ノ保護ヲ受クルコトヲ得タリ然ルニ此裁判所ノミニテハ埃及政府ニ對スル債權者ノ利益ヲ十分保護スルコト能ハサルカ故ニ同時ニ公債委員ナル者ヲ組織シ以テ公債事務ノ管理ヲ掌ラシメタリ千八百八十一年右公債委員ノ組織ヲ一變シテ純然タル國際的組織ト爲シ同時ニ公債事務ノ管理ノミナラス尙ホ埃及ノ財政ヲモ管理セシメタリ今日ニ於テハ此等ノ制度アルカ爲メニ埃及國ニ對スル各國債權者ノ利益ハ十分ニ保護セラル學者或ハ此例ヲ觀テ國家破産ニ對スル完全ナル救濟手段ナリト爲ス者アリト雖モ埃及國ノ如キ貧弱國ニ對シテ僅ニ之ヲ實行スルコトニ過キタルコトハ希臘ノ破産ニ際シ希臘政府ノ爲ス所ヲ見テモ之ヲ知ルニ足ルヘシ

#### 第四章 國家ノ大權

國家ノ大權トハ國際法ノ主體タル國家カ其生存ヲ全クスルカ爲メニ國際法上

當然享有スル所ノ權利ニシテ猶ホ吾人人類カ其生存ヲ全クスルカ爲メニ私權ヲ享有スルカ如シ然ルニ大權ノ意義ニ付テハ學者往往解釋ヲ異ニシ隨テ大權ノ分類ニ付テモ學說一定セス其名稱ニ至リテモ一ナラス或ハ基本權ト曰ヒ根本權ト稱シ若クハ絶對的權利原權等ト曰ヘリ而シテ予ハ左ノ如ク大權ヲ分類ス

第一 獨立權 國家ハ内治外交上外國ノ干渉ヲ受ケサル權利ヲ有ス是レ即チ獨立權ニシテ此權利ナキモノハ國際法上ノ主體ニ非ズ若シ或程度マテ制限セラルルトキハ國際法上ノ準主體タルモノトス國際法ノ主體タル國家カ獨立權ヲ有スル結果トシテ自國ニ於テ適當ト信スル法律ヲ制定シ又其適當ト信スル行爲ヲ爲スコトヲ得ヘシ又外國政府ハ獨立權ヲ有スル國家ノ領地内ニ於テ主權ヲ行フコト能ハス故ニ平時ニ於テ軍隊ヲ派遣シ又ハ官吏ヲシテ職務ヲ行ハシムル必要アルトキハ當該國ノ承諾ヲ求メサルヘカラス其他外國ノ犯罪人カ内國ニ逃レ來リタル場合ニ内國ハ之ヲ收容シテ犯罪國ニ引渡ササルノ權利アリ此權利ヲ稱シテ容隠權ト曰フ但シ容隠權ニ付テハ三說アリ第一說ハ容隠權

ヲ全然認ムルノ說ニシテ第二說ハ之ヲ否認スルモノ第三說ハ犯罪ノ性質ニ因リテ容隠權ヲ是認シ若クハ否認スルモノナリ今日實際ノ例ヲ見ルニ多クハ非國事犯ニ付キ引渡條約ヲ締結セサルハナシ故ニ反對解釋トシテ條約ナキ場合ニ於テハ犯罪人ヲ引渡ス義務ナシト斷定セサルヘカラス要スルニ容隠權ハ獨立權ヨリ生スル結果ナリ

國際法ノ主體タル國家ハ獨立權ヲ有スルカ故ニ條約ヲ締結シ若クハ公使ヲ派遣シ接受シ其他外交ヲ爲スニ當リテハ全ク自由ナリ

第二 自衛權 國家ハ其生存ヲ全クスルカ爲メニ自ラ衛ラサルヘカラス此權利ヲ稱シテ國家ノ自衛權ト曰フ但シ國家ニ對スル危害ハ必スシモ現在ノモノタルコトヲ要セス猶ホ將來ノ危害ニ對シテモ自衛ノ途ヲ講スルコトヲ得ヘシ蓋シ國家ハ危害ノ發生スルヲ待ツヘキ必要ナケレハナリ

此ノ如ク國家ハ自衛權ヲ有スルカ故ニ外國ニ對シテ戰爭ヲ爲シ復仇ヲ爲シ又ハ平時ニ於テモ陸海軍ヲ備ヘ砲臺ヲ築ク等ノ豫防方法ヲ爲スコトヲ得ルナリ又外國人ノ來住ヲ禁止スルコトヲ得又ハ自國內ニ住スル外國人ヲ國外ニ追放

スルコトヲ得ヘシ或ハ又國家ノ權利ヲ侵害セラレタル場合ニ國家ハ干涉ヲ爲スコトヲ得ヘシ是レ若自衛權ヨリ生スル結果ナリ從來ノ學者ハ往往利益ノ侵害ヲ以テ干涉ノ原因ト認メタリ例ヘハ權力平均ノ侵害ヲ以テ干涉ノ原因ト認メタリシカ今日ニ於テハ陳腐ノ説ニ屬ス

第三 名譽權 人類カ名譽ヲ有スルカ如ク國際法ノ主體タル國家モ亦名譽ヲ有スルモノニシテ此名譽ヲ尊重セシムル權利ヲ稱シテ名譽權ト曰フ或ハ之ヲ相互尊重權トモ曰フ國家ハ此權利ヲ有スルカ爲メニ其旗章紋章等ヲ外國ニ於テ濫ニ使用スルコトヲ得サルノミナラスニ對シテ敬意ヲ表示スルヲ例トス而シテ平時ニ於テ他國カ旗章ヲ濫用スルコト能ハサルハ一般ニ認メラレタル所ナレトモ戰時ニ於テハ一ノ問題ナリ例ヘハ露土戰爭ノ際ニ起リタル中立國ノ旗章ヲ詭計ヒシテ用フルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題ノ如キ是ナリ  
國際法ノ主體タル國家ハ其強弱ヲ問ハス全ク同等ナルカ故ニ名譽權ノ範圍モ亦異ナル所ナシ例ヘハ千八百八十三年佛國ノ賊民カ西班牙ノ皇室ヲ侮辱シタルカ如キ佛國政府ハ西班牙國ノ名譽權ヲ侵害シタルヲ以テ賠償ヲ爲シタリ然

レトモ實際上ニ於テハ國ノ強弱ニ伴ヒテ待遇ヲ異ニスルコトヲ免レス

第四 交通權 國際法主體ハ互交ニ通ヲ爲ス所ノ權利アリ故ニ甲國ハ乙國ニ向ヒテ擅ニ交通ヲ拒絕スルコト能ハス然ルニ多クノ學者ハ交通權ヲ以テ拋棄スヘカラサルモノト爲セリ是レ議論ナリ蓋シ各國カ國際法團體ヲ組織シタル所以ハ他ナシ自國ノ生存條件ヲ全ウセントスルニ在リ故ニ國際法團體ニ籍ヲ列スルコトノ自國ノ爲メニ不利益ナル場合ニ於テハ何時タリトモ國際法團體ヨリ脫退スルコトヲ得ヘシ

各國ハ交通權ヲ有スルカ爲メニ互ニ使節又ハ領事ヲ派遣シ若クハ接受スルコトヲ得ヘシ又其國民ニ通商航海ヲ爲スコトヲ許スモノトス然レトモ交通ノ條件ヲ定ムルハ各國ノ自由ナリ例ヘハ船舶ノ碇泊場ヲ指定シ旅行券ヲ交付シ貿易ノ規定ヲ定メ又ハ關稅規則ヲ制定スル等ノ自由ヲ有ス然ルニ關稅及ヒ通商ノ事タル各國ノ利益ヲシテ互ニ衝突セシムルモノナルカ故ニ通商若クハ航海條約ヲ締結シテ詳細ノ事項ヲ定ムルヲ例トス又今日ニ於テハ沿岸貿易ヲ外國人ニ許ササルヲ例トス

國際法團體ニ籍ヲ置カサル國ニ對シテ交通ヲ強フルコトヲ得ルヤ否ヤハ問題ナリ然ルニ多クハ之ヲ強制シ得ヘシト信スルカ如シ然レトモ予ハ此説ヲ否認スルモノナリ其理由ハ交通權ノ拋棄ニ付キ先ニ説明シタル所ニ同シ  
 甲國ノ臣民カ乙國ノ產物ニ因リテ生命ヲ維持スル場合ニ甲國ハ產物ノ輸出ヲ禁スルコト能ハスト曰フ者アリ然レトモ予ハ絕對ニ之ヲ認ムル能ハス即チ甲國ノ臣民カ必要トセザル產物ノ輸出ヲ禁止スルコト能ハサレトモ甲國ノ臣民カ依リテ以テ生命ヲ維持スル產物例ヘハ米穀ハ其輸出ヲ禁止スルコトヲ得ルモノトス是レ國家自衛權ヨリ生スル結果ナリ  
 大權ヲ侵越シタル場合ニ國家ハ被害國ニ對シ損害ヲ賠償スル責ニ任ス而シテ如何ナル場合ニ國家カ大權ヲ侵越シタルヤ否ヤハ之ヲ定ムルコト頗ル困難ナリ就中從來議論ヲ生シタルハ内亂ニ對スル國家ノ責任ナリ但シ此問題ハ二箇ノ點ニ於テ決定セラレタリ即チ内亂者カ第三國ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ第三國カ内亂者ヲ獨立國ト認メタルトキハ國家ハ賠償ノ責任ヲ解除セララルコト其一ナリ又兵力ノ微弱ナルコトハ責任ヲ免ルル理由ト爲ラサルコト其二ナリ

臣民カ第三國ニ加ヘタル損害ハ必スシモ大權侵越ト爲ラス例ヘハ臣民カ外國ノ皇族ニ對シ犯罪ヲ爲シタル場合ニ刑法上之ヲ罰スルヲ例トス然ルニ政府カ故意又ハ過失ヲ以テ制裁ヲ加フルコトヲ爲ササルカ若クハ民事ノ訴訟ニ付キ裁判ヲ拒絕シタルトキハ始メテ大權ノ侵越アルモノトス其他國家カ損害ヲ豫知シテ豫防ノ方法ヲ設ケサル場合ニ於テモ大權ノ侵越アリタルモノトス  
 官吏ノ加ヘタル損害ニ付テハ國家ハ絕對ニ責任ヲ負フモノトス而シテ其國法カ反對ノ事ヲ定ムルト否トハ問フ所ニ非ス君主ノ加ヘタル損害ニ付テモ亦同シ損害ヲ加ヘタル官吏又ハ主權者ハ民法上ニ於ケル未成年者ノ如キモノニシテ加害者タル官吏又ハ主權者ニ制裁ヲ加フルコト能ハス唯其不法行爲ヲ防タカ爲メニ自衛スルノ途アルノミ而シテ損害ノ測定スル標準ニ付テハ議論アレトモ要スルニ國際裁判所ナキ今日ニ於テ損害ノ額ヲ確定スルハ容易ノ業ニ非ス

## 第五章 領地

第一節 領地ノ性質

國際法ノ主體タル國家主權ノ行ハルル區域ヲ稱シテ領地ト曰フ而シテ此領地ヲ統治スル權利ヲ稱シテ領地主權ト曰フ今領地ヲ別ツコト左ノ如シ

第一 浮動領地 所謂浮動領地トハ國家ノ軍艦又ハ船舶ニシテ此軍艦又ハ船舶ニハ本國ノ主權行ハルルカ故ニ學者ハ之ヲ浮動領地ト名ケタリ浮動領地ノ範圍ハ古今同シカラス舊時ニ於テハ軍艦又ハ船舶ノ周圍ニ於ケル海水ヲ以テ均シク領地ト認メタレトモ今日ニ於テハ軍艦又ハ船舶ノ範圍ヲ以テ領地ト看做セリ軍艦ハ公海ニ於ケルト外國ノ領海ニ於ケルトヲ問ハス均シク浮動領地ナリト雖モ船舶ハ公海ニ於ケルト領海ニ於ケル場合トニ因リテ結果ヲ異ニス公海ニ於ケル船舶ハ浮動領地ナリト雖モ外國ノ領海ニ於ケル船舶ハ其國ノ主權ニ服從スルモノトス但シ大陸主義ハ之ニ反セリ

大陸主義ニ依レハ內國ノ港灣内ニ碇泊シタル船舶内ニ於テ犯シタル罪ハ其港灣ノ安寧ヲ害スルカ又ハ內國臣民カ此犯罪ニ關係スル場合ニ非サレハ內國ノ

法律ニ依リテ制裁ヲ加フルコトヲ得ス

船舶若クハ軍艦カ有スル國籍ヲ表識スル方法ハ今日ニ於テハ旗章アルノミ然レトモ如何ナル要件ヲ備フル船舶カ此旗章ヲ掲タルコトヲ得ルヤ否ヤハ國際法上ノ問題ニ非スシテ各國ノ法律ニ依リテ定マルモノトス之ニ關スル各國ノ制度ヲ分チテ二ト爲ス一ハ英米主義ニシテ一ハ大陸主義是ナリ英米主義ニ依レハ船舶ノ所有カ總テ英米ノ臣民ナル場合ニ非サレハ英米ノ船舶ト看做サズ隨テ此要件ヲ備ヘサル船舶ハ英米ノ旗章ヲ掲タルコトヲ得ス之ニ反シテ大陸主義ニ依レハ船舶所有者ノ或部分カ內國ノ臣民タル場合ニ於テ之ヲ內國ノ船舶ト看做セリ此ノ如ク各國ノ制度ニ依リ旗章ヲ掲タル權利ナキ船舶カ其旗章ヲ用ヒタルトキハ自國ノ旗章ヲ用ヒラレタル國ハ責任ヲ負ハサルモノトス旗章ハ國家ヲ表彰スルモノナルカ故ニ國家カ旗章ヲ定メタルトキハ之ヲ外國ニ通知スルコトヲ要ス獨逸政府ハ嘗テ此事ヲ爲サザリシカ爲メニ外國政府ノ抗議ニ遭遇シタルコトアリ

軍艦ト船舶トハ國際法上ノ地位ヲ異ニス即チ軍艦ハ外國ノ領海内ニ於テモ事

實上本國領地ノ一部分ト看做ツレ隨テ外國ノ犯罪者カ軍艦内ニ逃レ來リタルトキニ於テ外國政府ハ司法權ヲ行使スルコト能ハス此權利ヲ稱シテ軍艦ノ容隱權ト云フ然レトモ公海ニ於ケル軍艦及ヒ船舶ノ地位ハ全ク同一ナリ往時ノ學者ハ船舶及ヒ軍艦ヲ以テ國土ノ一部分ナリト信シタリシカ今日ノ學者ハ之ヲ以テ國土ノ一部ナリト假定セリ故ニ往時ニ於テハ公海ニ於ケル軍艦又ハ船舶ノ周圍ニ於ケル海水ハ一定ノ區域マテ軍艦又ハ船舶ノ屬スル國ノ領地ト看做サレタリシカ今日ニ於テハ此ノ如キ慣例ナシ

內國ノ臣民カ所有スル船舶ト雖モ他人ノ財產ヲ掠奪スル目的ニ使用スルトキハ其性質ハ一變シテ海賊船ト爲リ國際法ノ保護ヲ受クルコト能ハス蓋シ海賊ハ所謂萬國ニ對スル犯罪ナルカ故ニ今日ニ於テハ何レノ國民ト雖モ隨意ニ之ヲ逮捕シ其船舶ヲ差押フルコトヲ得ヘシ

船舶カ難破シタル場合ニ之ヲ救助スルハ領海所屬國ノ義務ナリ然ルニ往時ニ於テハ難破ノ場合ニハ領海所屬國ニ其船體ヲ取得スルノ權利アリキ今日ニ於テハ其船體カ無主物ト爲リタル場合ニ之ヲ先占スルコトヲ得ルノミ然レトモ

如何ナル場合ニ無主物ト爲リタルヤハ問題ナリ英米ノ慣例ニ依レハ乗組員カ船舶ヲ去リタル時ニ之ヲ拋棄シタルモノト看做セリ

第二 國土及ヒ領海 或ハ此領地ヲ本來ノ領地ト曰フ者アリ而シテ今日ノ慣例ニ依レハ海岸ヨリ三哩ノ海水ハ其國ノ領海ト認メラル但シ學者間ニ於テハ頗ル議論アリ伊太利國ノ學者ハ百伊里又ハ六十伊里以內ノ海水ヲ以テ領海ト爲スヘシトノ議論ヲ唱ヘ千八百九十六年ニ於ケル國際法學會ハ六哩以內ノ海水ヲ以テ領海ナリト決議セリ昔時ニ於テハ海岸ヨリ砲丸ノ到達スル區域内ヲ領海ト認メタリシカ砲術及ヒ砲製ノ發達シタル今日ニ於テ此區域ハ頗ル狭少ニ失スルカ故ニ遂ニ三哩ノ慣例ヲ生スルニ至レリ其三哩ノ起算點タル海岸ハ乾潮ノ時ニ於ケル海水ト陸地トノ接續線ヲ謂フモノナレトモ昔時殊ニ羅馬時代ニ於テハ滿潮ノ時ニ於ケル接續線ヲ以テ海岸ト定メタリ

領海ニハ數種アリ内海海灣又ハ海峽沿岸海等是ナリ此等ノ領海ハ國際法上全ク同一ノ地位ヲ有スルモノナレトモ如何ナル海水カ内海ナルカ或ハ海灣ナルヤ否ヤハ箇箇ノ場合ニ於テ之ヲ確定スルコト困難ナリ然レトモ内海又ハ海灣

ノ入口カ六哩以下ニシテ其全岸カ同一國ニ屬スル場合ニ於テハ之ヲ領海ト看  
做スヘキモノトス黑海ノ如キハ其入口六哩以下ナルモ其全岸カ同一國ニ屬セ  
サルカ爲メ領海ニ非ス

### 第二節 境界

境界ヲ定ムル方法ニ二アリ一ハ人爲的ノ方法ニシテ例ヘハ經度緯度ニ因リテ  
境界ヲ算定スルカ如キ或ハ石標石壁抗木濠渠等是ナリ一ハ天然的ノ方法ニシ  
テ山嶽河川等ヲ標準トシテ境界ヲ定ムルモノアリ河川ニハ交通スヘキモノト  
否ラサルモノトニ因リテ其結果ヲ異ニス交通スヘキ河川ニ付テハ航路ノ中央  
ニ畫シタル線ヲ以テ境界ト爲ス之ニ反シテ交通スヘカラサル河川ニ付テハ其  
中央ニ畫シタル線ヲ以テ境界ヲ爲ス

### 第三節 領地ノ取得

領地取得ノ方法ニ原始的取得方法ト承繼的取得方法トノ二種アリ原始的取得

方法ヲ別テテ三種トス曰ク先占曰ク増殖曰ク時効是ナリ先占トハ何國ニモ屬  
セサル土地ヲ取得スル場合ニシテ無人島ヲ占領シ又ハ野蠻人ノ棲息スル地ヲ  
占有スル場合ノ如キ是ナリ往時ニ於テハ河口又ハ海灣ノ入口ヲ先占シタルト  
キハ同時ニ其内地ヲモ先占シタルモノト認ムヘシトノ説行ハレタリシカ方今  
ニ於テハ實際占有ヲ爲シタル領地ノ取得區域ノミ取得セラルルモノトス増殖  
トハ隆起又ハ寄洲ニ因リテ新ニ國土ヲ生シタル場合ヲ云フモノニシテ領河カ  
土砂ヲ公海ニ流出シテ之カ爲メニ生シタル島嶼ハ領河所屬國ノ領地ト看ルヘ  
キヤ否ヤニ付テハ議論アレトモ米國ハ此説ヲ是認シタリ寄洲トハ海岸ニ附著  
シタル土地ヲ謂フモノニシテ和蘭ノ如キ人工ヲ以テ此種ノ取得方法ヲ實行ス  
ル者アリ時効トハ一定ノ年限間國家カ外國ノ領地ヲ占有スルカ爲メニ其土地  
ヲ取得スル場合ヲ謂フモノニシテ今日ニ於テハ此例種々ラ尠シ  
承繼的取得方法トハ甲國ノ意思ニ基キ甲國ノ所有シタル領地ヲ取得スル場合  
ヲ謂フモノニシテ其種類頗ル多シ例ヘハ賣買交換ノ如キ是ナリ



### 第四節 國際河川

國際河川トハ數國ノ領地ニ跨ル河川ニシテ或ハ數國ヲ貫流スルモノアリ或ハ二國ヲ隔離スルモノアリ此種ノ河川ハ萬國ノ公道ト看做サレ各國ノ船舶ハ自由ニ交通スルコトヲ得ルモノニシテ萬國ニ於テ始メテ之ヲ定メタルハ維納會議ノ時ニ在リ

### 第五節 公海

公海ハ自由ナリトハ國際法學者カ一般ニ唱フル所ノ格言ニシテ各國ノ臣民カ公海ヲ以テ公道ト爲シ且ツ各國ハ之ニ對シテ主權ヲ行フコトヲ得サルコトヲ意味スルモノナリ往時ニ於テハ葡萄牙英吉利等ノ諸國ハ公海ニ對シテ主權ヲ行ヒタリシカダゴロチユース以來右ニ述ヘタル格言ハ一般ニ認メラルルニ至レリ然ルニ何カ故ニ公海ハ自由ナリヤノ問題ニ付テハ學者各其見解ヲ異ニス或ハ曰ク公海ハ人力ヲ以テ占有スルコトヲ得サルカ故ニ主權ヲ行フコトヲ得テ

ルハ公海ノ性質ヨリ生スル當然ノ結果ナリト或ハ曰ク各國ハ公海ニ對シテ主權ヲ行ヒ得サルニ非ス唯之ヲ行フトキハ各國民ノ交通ヲ阻碍シ隨テ各國民ノ生存條件ヲ妨害スルカ故ニ此原則ヲ生シタルモノナリト後説ヲ以テ正當ナリト信ス

公海ハ自由ナルカ故ニ各國ノ人民ハ外國人民ヲ害セサル範圍内ニ於テ公海ヲ使用シ又ハ其果實ヲ收ムルコトヲ得ヘシ例ヘハ漁獵ヲ公海ニ於テ爲スハ各國人民ノ自由ナリトス

### 第六章 條約

條約ハ埃及希臘羅馬等ノ古代ニ於テモ既に其例ヲ觀ル唯今日ノ條約ト異ナル所ハ其效力及ヒ内容ニ在リ往時ニ於テハ條約ハ往往兒戲ニ類スルコトヲ定メタレトモ今日ハ然ラス條約ハ必ス國家ヲ生存條件ト密著ノ關係ヲ有セサルハナレ又往時ニ於テハ條約ノ效力ハ極メテ微弱ナリシカ中世宗教ノ信仰ニ因リテ其效力モ亦漸ク鞏固ト爲ルニ至レリ然レトモ當時國家カ條約ヲ履行スル精

神ハ今日ト全ク異ニシテ天帝又ハ耶蘇ノ命ニ背ク恐アルヲ以テ之ヲ履行セシカ今日ハ然ラス條約ノ效力ハ全ク實利ノ觀念ニ根據ス蓋シ今日ノ國家カ漫ニ條約ヲ破ラサルハ天帝ヲ恐ルル故ニ非ス又耶蘇ノ命令ヲ背クヲ恐ルルカ故ニモ非スシテ條約ノ違反ハ自國ニ對シテ不利ナルカ故ナリ例ヘハ甲國カ乙國ニ對シテ漫ニ條約ヲ破ルトキハ國際法團體ニ對シテ信用ヲ失フカ故ニ他日他ノ諸國ト條約ヲ結ヒ若クハ平和的ノ交際ヲ爲サントスルモ其目的ヲ貫クコト困難ナレハナリ

條約ノ當事者ハ主權國ナルヲ要ス半主權國ハ完全ニ意思ヲ表示スル能ハサルカ故ニ例外ノ場合ニ於テ條約ヲ締結スルコトヲ得ルノミ又條約當事國ノ代表者ハ適法ナラサルヘカラス而シテ代表者カ適法ナルヤ否ヤハ一ニ被代表國ノ國法ニ依リテ之ヲ定ム又代表者ハ委任ノ權限ヲ超エサルコトヲ要ス若シ此權限ヲ超エテ條約ヲ締結スルトキハ被代表國ヲ拘束セザルモノトス但シ被代表國カ之ヲ追認シタルトキハ既往ニ遡ルモノトス而シテ追認ノ方法ハ一ナラス被代表國カ外交文書ニ依リテ追認ノ意思ヲ表示スルコトアリ或ハ條約ヲ履行

シテ間接ニ追認ノ意思ヲ表示スルコトアリ

條約當事國ノ代表者ハ自由ニ意思ヲ發表シタルコトヲ要ス例ヘハ詐欺強暴等ニ因リテ意思ノ自由ヲ妨ケラレタルトキハ其條約ハ無効ナリトス而シテ戰爭ノ場合ニ於テ戰敗國ハ意思ノ自由ヲ制限サレタルカ如キモ戰爭ハ國際法上公認セラレタル適法行為ニシテ戰敗國ハ其結果ヲ豫期セルモノナルカ故ニ媾和條約ノ無効ヲ主張スルコト能ハス

要スルニ條約ノ效力ハ既往ニ比シテ漸ク鞏固ト爲リタルモノニシテ殊ニ倫敦條約以來條約當事國ハ對手國ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ漫ニ條約ヲ廢棄スルヲ得サルコトト爲レリ

國情一變ヲ理由トシテ條約ヲ廢棄スルコトヲ得ルヤ我國カ歐米諸國ト締結シタル舊條約ハ我國ノ舊國情ニ適シタルモノナルカ故ニ國情ノ一變ト共ニ條約ヲ廢棄スルコトヲ得ヘキカ如シバテルノストロウ氏ノ如キハ右ノ理由ヲ以テ條約改正論ノ論據ト爲シタリト云フ然ルニ之ヲ駁スル者ハ曰ク單獨行為ニ因リテ漫ニ條約ヲ廢棄スルコトヲ得サルハ倫敦條約ノ規定スル所ナルカ故ニ國

情一變ヲ理由トシテ條約ノ改正ヲ望ムハ國際法違反ナリト此取論ハ誤謬ナリ  
 河トナレハ我國ハ倫敦條約ノ當事國ニ非サルカ故ニ此條約ノ拘束ヲ受クヘキ  
 理ナケレハナリ予ヲ以テ之ヲ觀ルニ條約ニ於テ明示若クハ默示ニ條約存立ノ  
 期間ヲ定メタル以上ハ何國タリトモ之ヲ廢棄スルコトヲ得ルモノトス如何ト  
 ナレハ國家カ條約ヲ締結スルニ當リ存立ノ期間ヲ定メタルハ雙方ノ承諾アル  
 間ノミ互ニ效力ヲ保持スヘトノ意ナレハナリ

條約ノ成立ノ時期ニ付テ今日ノ實際ヲ觀ルニ條約ハ條約締結ノ一事ヲ以テ完  
 成スルニ非スツテ必ズ第二ノ手續タル批准ヲ要ス蓋シ批准ナルモノハ國家ノ  
 元首若クハ大統領カ條約ノ締結ヲ承認スルノ謂ニシテ書面條約ニハ此手續ヲ  
 缺クコトナシ唯委任狀ニ批准ヲ要セサル旨ヲ規定スル場合若クハ戰時ニ於テ  
 僅ニ其例外ヲ見ル

「グロテューズ」以來舊時ノ學者ハ批准ヲ以テ條約成立ノ條件ニ非スト云フ者多  
 シ其理由トスル所ハ條約締結後尙ホ批准ヲ要スルトキハ條約締結ノ委任ハ有  
 名無實ニ終ルヘシト云フニ在リ然ルニ「ビンケルシュ」以來此說ヲ一變シ今日

ノ學者ハ大抵批准ヲ以テ條約成立ノ要件ト爲セリ然レトモ條約カ如何ナ時ル  
 期ニ於テ成立スルヤノ問題ニ付テハ學說一定セス誠ハ曰ク條約ノ批准ハ條約  
 ノ追認ニ等シク唯效力ニ關スルモノニシテ條約ノ成立ニ關セス而シテ條約締  
 結ノ當時ニ條約ハ成立スルモノナリト然ルニ他ノ學者ハ曰ク條約締結後政治  
 上ノ事情一變セシカ爲メニ條約ノ成立ヲ妨タル必要アルヘシ故ニ條約ノ批准  
 ヲ要スルハ國家ヲシテ締結後十分政治上ノ利害關係ヲ考察セシムル所以ニシ  
 テ條約ハ批准ニ依リテ成立スルモノナリト予ヲ以テ之ヲ觀ルニ條約ハ批准交  
 換ヲ爲シタルトキ始メテ成立シ且ツ其效力ヲ發生スルモノナリ

條約ノ批准交換後議會カ協贊ヲ爲ササルカ爲メニ條約ヲ履行スルコト能ハサ  
 ル場合ニ於テ對手國ニ對シテ國際法上猶ホ條約ノ履行ヲ爲ス責任アルヤ此問  
 題ニ付テハ議論一定セス或ハ曰ク條約當事國ハ對手國ノ資格ヲ詳察スヘキ義  
 務アリ即チ對手國ハ國法上條約履行ノ爲メ如何ナル手續ヲ要スルヤヲ知ルノ  
 義務アリ故ニ議會カ協贊セサルカ爲メ條約ノ不履行ヲ來スモ自ラ豫期スル所  
 ナルカ故ニ其履行ヲ請求スルコト能ハス然ルニ他ノ學者ハ曰ク條約當事國ハ

對手國ノ國法ヲ知ルヘキ義務ナシ何トナレハ國法上ノ關係ハ國家内部ノ間  
ナレハナリ

條約當事國ノ一方カ批准ノ手續ヲ終ルトキハ他ノ一方ハ必ス批准ヲ爲スヘキ  
義務アリト論スル者アレトモ一般ノ學說ハ之ヲ道德論ナリトシテ斥クル所ナ  
リ而シテ條約批准拒絕ノ例ハ夥カラス千八百四十一年佛國カ奴隸事件ニ付キ  
英國其他ノ國ニ對シテ批准ヲ拒ミタルカ如キ又千八百八十八年土耳其カ英吉  
利ニ對シテ條約批准ヲ拒ミタルカ如キ是ナリ

次ニ條約ノ種類ニ付キ一言センニ古來ノ學者ハ條約ノ種類ヲ區別スルニ種種  
ノ標準ヲ擇ヒタリ或ハ條約ノ時期ニ因リテ之ヲ區別スル者アリ或ハ當事國ノ  
數ニ因リテ之ヲ區別スル者アリ或ハ又締結者ノ種類ニ因リテ之ヲ區別スル者  
アリ然レトモ此等ノ區別ハ何レモ形式上ノ區別ナルカ故ニ重要ノモノニ非ス  
「マルタン」ニ實質上ヨリ條約ヲ二箇ニ區別セリ曰ク政治條約曰ク社會條約是  
ナリ即チ國家ノ政治ニ關スル條約ヲ以テ政治條約ト爲シ國民ノ社會的生存ニ  
關スル條約ヲ以テ社會條約ト爲セリ例ヘハ締和條約又ハ領地割讓條約等ハ前

「バトル」モ亦第三者ヨリ防禦同盟條約ノ故ヲ以テ交戰國ノ一方ニ助勢スルハ其  
中立タルニ妨ナク交戰國雙方ニ對シテ平和ノ關係ニ在ルモノトシ條約規定ニ依  
ルトキハ之カ海軍又ハ軍隊ニ助勢ヲ與フルモ正當トセリ隨テ交戰國ノ中立國  
領内ニ於テ兵士ヲ募リ軍艦ヲ買入レ又ハ之ヲ贖裝若クハ武裝スルカ如キハ固  
ヨリ禁セザリシハ言フヲ埃タスシテ時トシテハ其國ノ許可ナクシテ交戰國ハ  
此等行爲ヲ爲シ得ヘキモノトセリ然ルニ第十八世紀ノ末ニ於テ「マルタン」ニ  
始メ多クノ學者ハ中立國ヨリ兵士等ヲ送リテ交戰國ヲ補助スルハ中立ト爲ス  
ヘカラスト論シ千七百八十八年露國ト瑞典國ノ戰爭ニ於テ丁抹ヨリ兵士ヲ送  
リテ露國ニ助勢シタルハ條約ニ基キタレトモ瑞典ヨリ激烈ナル抗議ヲ來シ同  
戰爭ニシテ永ク繼續セハ丁抹ハ露國ト共ニ瑞典國ニ對シテ敵國ノ地位ニ立ツ  
ノ已ムヘカラサルニ至リタリ

今世紀ニ至ルマテハ中立國ノ領内ヲ交戰國ノ戰爭ニ使用スルハ尤ムヘカラサ  
ルモノト看做アレ其實例尠カラズ「ドロニュー」ハ中立國ニ於テ之ヲ避ケントセ  
ハ交戰國雙方ト條約ヲ結ヒ其好意ニ因リ自國領内ニ於テ戰鬪行爲ヲ爲スヘカ

ラサルコトヲ約定スルニ如カストシペンケルヨータモ交戰國軍艦ノ敵國船ヲ追迫シテ中立國領海ニ入ルトキハ之ヲ拿捕シ得ヘキコトヲ説キタレトモ此道理ハ方今認ムヘカラサルニ至レリ又交戰國中立法國ノ國家間ニ於テ局外中立ノ關係生シタルトキニ於テ中立國人民ノ戰鬪行爲ニ從事シ中立國領土ヲ戰爭準備ニ使用スルヲ得ルコトト爲リシカ千七百九十三年英佛戰爭ニ於テ華盛頓政府ノ中立義務ヲ嚴正ニ實行スルヲ努メ佛國カ米國港内ニ於テ拿捕ニ用フル私船ヲ嫌疑シ又領事ヲシテ捕獲審檢所ノ代用ヲ爲サシメタルニ對シ米國政府ハ之ニ抗議シ佛國公使ノ召還ヲ請求シ佛國モ之ニ從フニ至リ同年ヨリ千八百十八年ニ至ルマテ米國ハ外國軍隊入籍法ヲ發布シ主トシテ第十八世紀ノ公法學者ノ意見ニ基キ自國民ノ戰爭行爲ニ干與スヘカラサル法令ヲ發布シタルヨリ局外中立ノ法則ニ付キ大ナル進歩ヲ促シ英國ノ取リタル態度ハ正當ト看做サレ諸國モ之ニ倣フニ至レリ

之ヲ要スルニ局外中立ニ關スル法則ノ發達ハ當初中立國ハ交戰國間ノ爭議ニ付キ正當ト否トヲ區別シ以テ其助勢ノ義務ヲ異ニシ交戰國ハ戰爭中第三國ヲシテ戰爭ニ干與セシメサルコトヲ認メタルハ「グロシユース」ノ意見ニテ第十七世紀ニ於テ行ハレ第十八世紀ニ於テハ條約ニ依ルニ非サレハ中立國ヨリ交戰國一方ニ助勢スルヲ不正ト認メ又交戰國ハ戰爭上大ナル必要アルニ非サレハ中立國主權ヲ侵スヘカラストシ第十九世紀ニ於テハ戰爭前ヨリ條約ノ有無ヲ問ハス如何ナル場合ニ於テモ中立國ハ交戰者ニ加勢スル能ハス又其領土内ノ人民ヲシテ交戰者一方ノ利益ト爲ルヘキ助勢ヲ他ノ一方ニ爲スコトヲ禁スヘク之ト同時ニ交戰國ニ於テモ嚴正ニ中立國ノ主權ヲ尊重スヘキコトト爲レリ

### 第三章 局外中立國ノ權利義務

#### 第一節 總 則

中立國ノ權利義務ニ付キ國際公法ニ於テ論スル所ハ中立國ノ交戰國ニ對スル權利義務アリ又中立國人民ノ交戰國ニ對スル義務アリテ學者中之中ヲ混同スル者アルハ大ナル誤謬ニ屬ス何トナレハ前者ハ國家間ノ權利義務ニシテ後者ハ

中立國人民ノ交戰國雙方ニ對シ其普通ノ商業封港戰時禁制品及ヒ中立違反ノ事項ニ關シテ有スル簡人的關係ニシテ縱令之ニ違反スル者アルモ中立國政府ハ責任ヲ有スルニ非ス單ニ交戰國ハ自ラ違反者ヲ逮捕シ捕獲審檢所ニ依リテ之ヲ罰シ得ヘキニ過キス之ニ反シテ本章ニ所謂中立國ノ權利義務ニ關スル法則ハ國家行為ヲ規定スルヲ以テ其違反ハ自ラ國家ノ責任ニ屬シ交戰國ト中立國ノ政府間ニ於テ互ニ其救濟賠償ヲ爲スヘキモノトス今其法則ヲ說クニ當リ第一交戰國ノ中立國ニ對スル義務第二中立國ノ交戰國ニ對スル義務トシ之ヲ左ニ説明セン

### 第二節 中立國ニ對スル交戰國ノ義務

中立國ニ於テ局外中立ノ義務ヲ犯ササル以上ハ交戰國ハ戰爭行為ノ爲メ其國主權ヲ侵スヘカラサル嚴正ノ義務アルモノニシテ今中立國ノ權利ニシテ交戰國ノ義務ヲ類別スルハ

第一 中立國ノ版圖内ニ於テ戰鬪行為ヲ爲スヘカラス

- 第二 戰爭行為ノ準備ヲ中立國版圖内ニ於テ爲ス能ハス
  - 第三 局外中立ヲ維持スル爲メ中立國ノ發布セル相當ノ規定ハ交戰國ノ遵奉スヘキコト
  - 第四 中立國ノ權利ヲ侵シタルトキハ其救濟賠償ヲ爲スヘキコト
- ノ四種ト爲スコトヲ得ヘシ

### 第一款 中立國版圖ノ不可侵權

中立國ノ領土領海ニ於テ戰鬪ヲ爲スヘカラサルノ道理ハ國際法上夙キ時代ニ於テ認メラレタレトモ其實行ハ近世ニ有ルコト前述ノ如シ今日ニ於テハ此點ニ付キ又疑ナシ隨テ交戰國ノ軍隊又ハ軍艦ハ中立國ノ版圖内ニ於テハ互ニ戰鬪ヲ爲スヘカラサルノミナラス更ニ戰爭ニ關スル一切ノ行為ヲ爲ス能ハスシテ例ヘハ軍艦ノ公海ニ於テ敵艦ヲ追迫シ中立國領海ニ入ルトキハ拿捕スルコト能ハス又交戰國軍隊ハ中立國ノ許可ナクシテ其領内ヲ通行若クハ之ニ侵入スル能ハス中立國ニ於テモ通行ヲ許可スルハ其義務ノ違反トス然レトモ平時

國際公法ニ於テ論スル如ク國家自衛權ノ行使ニ依リ中立國版圖ノ不可侵ヲ破ルハ尤ムヘカラスヲ千八百三十七年カロリン事件ハ其適例トス即チ自國ノ自衛上危險ノ切迫シテ他ノ手段ヲ擇フノ迫ナク又之ヲ避クル手段ニ付キ熟考ノ時間ナキニ於テシ且ツ其行爲ヲ爲スニ際シ被害國ニ對シテ故意ノ存スルコトナク又自國ノ防衛ニ必要ノ範圍内ニ於テ之ヲ行ヒタル場合ナラサルヘカラス

中立國版圖内ニハ水上ト陸上トヲ問ハス交戰國ハ敵國攻撃ノ準備ヲ爲スヘカララルコトハ千八百七十一年英米兩國間ノ華盛頓條約第六條ニ於ケル三法則中ニモ明言スル所ニテ國際公法ノ原則タリ隨テ其版圖内ニ於テ交戰國ハ兵備ヲ爲シ海陸兵士ヲ募集スルコト並ニ兵器彈藥其他直接ニ戰爭ノ用ニ供スル物品ヲ取得スルコト能ハス然レトモ戰爭用ニ直接ナラザル物品ニ關シテハ之ヲ禁スルニ非スシテ例ヘハ航海ニ必要ナル石炭糧食及ヒ器具等ハ交戰國船艦ノ購求スルコトヲ得ヘク又船體ノ修復ヲ爲スモ妨ケナシ但シ其修復タル船艦ヲシテ航海ノ用ニ地ヘシムルノ範圍内ニ限リ其構造ヲ變シ敵國船ノ攻撃又ハ防

禦ニ關スル戰鬪力ヲ増加スル修復ハ許ス所ニ非ス又中立國ノ任意ニ因リ交戰國軍艦ニ對シ航海用ノ物品ヲ支給スルニ付キ其分量ヲ制限スルハ妨ナシ例ヘハ軍艦ニ賣渡スヘキ石炭ノ分量ニ制限ヲ爲ス如キハ交戰國雙方ニ對シテ同一ニスルニ於テハ決シテ妨ナキ所ナリ要スルニ中立國版圖内ニ於テ交戰國ハ戰爭準備ヲ爲スヘカラスト云フハ其版圖内ヲ戰鬪行爲ノ根據地トスヘカラザルコト及ヒ其版圖内ヨリ敵國ニ對スル遠征ヲ爲スコト能ハサルヲ意味スルモノナリ

戰鬪行爲ノ根據地ト云フハ例ヘハ陸軍ニ於テハ中立國版圖内ヨリシテ輜重ヲ得若クハ其地ニ於テ兵士ヲ募リ若クハ其場所ヨリシテ敵國ヲ侵襲シ必要ノ場合ニハ之ニ引退スル所トスルカ如キ使用ヲ引續キ其地ニ於テ爲スト否トニ因リ戰鬪行爲ノ根據地ト爲シタルヤ否ヤヲ決スヘク海陸軍ノ中立國領内ニ於テ糧食其他ノ需用品ヲ隨時ニ取得シタリトテ根據地ト爲シタルモノト看做スヘカラサルニ反シ引續キ其地ニ之ヲ仰キテ戰爭行爲ニ從事スルハ縱令其支給ノ物品ハ性質上日常品ト雖モ中立國權利ノ侵犯ニシテ國際法上禁スル所ナリ又

敵國遠征ノ場所ト爲スヘカラスト云フハ交戰國軍隊又ハ軍艦ノ其地ニ於テ組  
織シ又ハ艤裝シ以テ戰爭ニ向フヲ意味スルモノニシテ千八百二十八年葡國內  
亂ニ於テ「マリア」玉ニ屬スル兵士ノ一隊ハ葡國ヨリ追撃セラレ英國ニ入りテ隱  
匿シ兵器ヲ携帶セサリシカ士官ノ指揮下ニ在ル團體トシテ滞在シ居タルニ千  
八百二十九年四艘ノ商船ニ乗組ミ「ブラジル」國ニ行クト稱シテ出發シ葡國領  
ルセイラ島ニ上陸セントシタルニ因リ英國ハ同島ニ軍艦ヲ派遣シ置キテ其上  
陸ヲ禁シ兵器ハ別ニ商品トシテ送リタリシカ其團體ヲ葡國ニ對スル遠征ト看  
做シテ之ヲ差押ヘタリ此英國軍艦ノ葡國領海ニ於テ差押ヲ爲シタルハ不法ナ  
レトモ中立國タル英國ヨリ戰爭ノ遠征ヲ爲サントスルヲ差止メタルハ正當ト  
ス之ニ反シテ千八百七十年普佛戰爭ノ初ニ於テ米國在留ノ佛國人及ヒ獨逸人  
「本國ニ對スル兵役義務ヲ盡スカ爲メ歸國スルニ際シ箇箇別別又ハ小團體ニ  
テ出發シタルハ問題ト爲ラナリシカ千二百名ノ佛國人ハ紐育港ヨリ二艘ノ佛  
國軍艦ニ乗組ミ九萬六千挺ノ小銃及ヒ千百萬箇ノ彈丸ヲ積荷トシテ歸國セン  
トシタルヲ以テ米國政府ハ之ヲ差止メタルニ法廷ハ獨逸ニ對スル遠征ニ非ス

下シ佛人ハ武器携帶ノ者ニ非ス又士官ノ監督ノ下ニ在ラサルニ因リ本國ニ上  
陸スルヤ否ヤ軍隊ニ入ルコト明カナレトモ直チニ之ヲ戰爭上ノ遠征トシテ出  
發スル者ト看做ス能ハス而シテ小銃彈丸ハ其物自體ハ正當ノ商品ナリトノ理  
由ヲ以テ之ヲ無罪トセリ之ヲ要スルニ敵國ニ對スル遠征ヲ爲スヘカラストハ  
其團體ニシテ陸軍又ハ海軍ノ指揮ノ下ニ在ラサルヘカラストシテ戰爭ニ直チニ  
使用シ得ヘキ物ニ付テノミ之ヲ禁止スルニ過キス

第二款 中立ノ規定及ヒ其違反

中立國ニ對スル義務ヲ交戰國ノ履行ヲ怠リ又ハ其義務ニ違反シタルトキハ中  
立國ハ其救済賠償ヲ求メ得ヘキノミナラス必要ノ場合ニハ兵力ヲ以テ自國權  
利ノ侵犯ヲ防キ若クハ侵犯者ヲ逮捕シ其物品ヲ差押ヘ得ヘシ加之中立國ハ他  
國ノ戰爭中自ラ其中立ヲ嚴正ニ維持スルノ必要ヨリシテ交戰國戰國者ノ其版  
圖内ニ於テ遵守スヘキ法律規則ヲ實行シ得ヘシ然レトモ其中立ニ關スル規定  
ハ主トシテ領海内ニ於テ交戰國軍艦ニ對スルモノニシテ軍隊ハ中立國版圖内



ニ入ルコト能ハサレトモ海軍ニ付テハ中立國ニ於テ其入港ヲ禁スルニ非サレハ自由ニ其領海及ヒ港灣ニ入り得ヘキモノニシテ此特權ノ由リテ來ル所ハ中立國ノ默許ニ在ルヲ原則トス隨テ中立國ハ其領内ニ交戰國軍艦ノ入ルヲ許スニ付キ自國ノ中立ヲ維持スルニ必要ナル條件ヲ附シ得ヘキモノニシテ交戰國ハ之ニ服従スルノ義務ヲ有シ單ニ其規定ノ不法ニシテ不相當ナル制限ヲ破ルヘカラサルコトヲ請求セ交戰國一方ニ偏重ナル待遇ヲ受クヘカラサルコトヲ要求シ得ルニ過キス但シ天災ニ因リ又ハ航海ニ不適當ナル狀態ニ陥ルトキハ中立國ノ規定如何ニ拘ラス其版圖内ナル如何ナル港ニ於テモ難ヲ避ケ得ヘシ方今中立國版圖内ニ於ケル交戰國軍艦ニ對スル規定トシテ諸國一般ニ行ハルル慣例ニ依レハ二十四時間ノ法則アリテ交戰國一方ノ軍艦ニシテ中立國ノ港ニ在ルトキハ其敵國軍艦若クハ商船ノ其港内ニ在ルニ際シ一方ノ船舶其港ヲ立去リタル後少クモ二十四時間ヲ經過セザレハ對手國ノ軍艦商船ヲ出港セザルヲ普通トシ其目的トスル所ハ自國領海又ハ領海附近ニ於テ戰爭行為ヲ爲スヲ防キ以テ同港ニ出入スル船舶又ハ自國領土ニ危險ヲ與フルヲ防クニ在

リ然レトモ時トシテハ軍艦司令官ニ於テ斯ル行為ヲ領海又ハ其近傍ニ於テ行ハサルコトノ證言ニ因リ出港ヲ許スコトナキニ非ス此法則ノ行ハルルニ至リタルハ千八百六十一年乃至千八百六十四年米國南軍ノ軍艦ナシユビル號ノ英國タクランプトン港ニ於テ修覆中北軍ノ軍艦タスカローラ號ノ同港ニ入港シ「ナシユビル」號ノ出港ヲ待チ擊破セントシタルヲ以テ英國軍艦ハ「タスカローラ」號ヲ二十四時間港内ニ止メ置キ「ナシユビル」號ヲ公海ニ護送セリ此事件ヨリシテ英國ハ千八百六十二年一月三十一日前述二十四時間ノ法則ヲ規定シ且ツ交戰國軍艦ハ其修覆ノ場合ヲ除キ少クモ入港後二十四時間内ニ於テ出港スヘキコトトシ其修覆ノ場合ニハ政府ノ特許ヲ受クヘク之ヲ終リタル後ハ二十四時間内ニ立去ルヘキコトヲ規定セリ而シテ交戰國軍艦ハ航海用ノ糧食其他ノ需用品ヲ其港内ニ於テ購求シ得ヘシト雖モ石炭ノ如キハ方今軍艦ノ爲メニハ殆ト兵器ト需用ノ程度ヲ同シタシ其多少ニ因リ戰闘力ニ大差アルヲ以テ其賣渡ノ分量ニ制限ヲ設ケ本國最近港マヲノ航海ニ必要ナル分量以外ヲ一時ニ搭載スルコトヲ許サス又三箇月間ニ一度以上同一軍艦ニ其搭載ヲ禁セリ此規定ノ全部

又ハ一部ハ其後ノ戰爭ニ於テ諸國ノ適用スルコト爲リ千八百七十年普佛戰爭ニ於テ米國モ英國ト同一ノ規定ヲ設ケ方今ニ於テハ國際法上ノ規定ト看做サルルニ至ラントシ一昨年比律賓戰爭ニ當リ我國ノ中立ニ關シテモ大體ニ於テハ之ト同一ノ法令發布セラレタリ然レトモ此二十四時ノ法則及ヒ石炭ノ搭載ニ關スル制限ハ未タ以テ國際公法ノ法則ト確定シタルモノニ非ス若シ中立國ニ於テ交戰國雙方ニ對シ石炭ノ分量ニ付キ何タル規定ヲ爲ササルモ決シテ中立ノ違反ニ非ス

交戰國軍艦ノ拿捕物ヲ率ヒテ中立國港内ニ入ルハ國際公法上禁スル所ニ非ス然レトモ今世紀ノ半頃ヨリシテ中立國ハ交戰國軍艦ノ拿捕物ヲ率ヒテ入港スルハ難破ヲ避クル場合ノ外ハ諸國之ヲ禁スルニ至リ今後國際公法上ノ慣例ト爲ラントスルノ傾向アリ然レトモ方今ニ於テハ未タ中立國ノ義務トスル能ハス又陸戰ニ於テ交戰國軍隊ハ中立國領土内ニ入ル能ハサレトモ敵軍ノ追撃ニ因リ已ムヲ得ス入り來ルコトナキニ非ス此場合ニ於テハ中立國ハ之ヲ追出スヘキ義務ナクシテ其兵士ヲ本國ニ返シ若クハ再ヒ戰爭ニ赴カシムル能ハス

ト雖モ自國領内ニ入ルヤ否ヤ其兵器ヲ取去リ戰爭終了ニ至ルマテ自國ニ留置タヘキモノトス而シテ其留置ノ費用ハ本國政府ヨリ拂戻スヘキ義務ヲ有ス千八百七十一年佛國兵士八萬五千人ハ獨逸軍ノ爲メニ追撃セラレ瑞西國ニ入リタルニ同國ハ其兵器ヲ取去リ政府ヨリ衣食ヲ給シテ之ヲ留置キ戰爭後佛國政府ハ其費用ヲ返還シタルハ之カ一例ニシテ「ブルセル宣言」第五十三條ニ於テモ詳ニ之ヲ規定シ交戰國軍隊ニ屬スル兵士ヲ領内ニ入ルルトキハ兵器ヲ取去リ或ルヘク戰地ヨリ隔リタル場所ニ置クヘク兵營城堡若クハ一定ノ場所ヲ限リ留置シ得ヘク其士官ハ中立國政府ノ許可ナクシテ國境ヲ越ニサルヘキ宣誓ニ因リ居住ヲ自由ニシ得ヘク之ヲ爲スト否トハ中立國ノ任意ニ在ルコトヲ定メ第五十四條ニ於テハ中立國ハ斯ル兵士糧食衣服及ヒ總テ人情上支給スヘキモノハ之ヲ給與シ其自國ニ兵士ヲ留置シタルニ付キ要シタル一切ノ費用ハ媾和ノ時ニ於テ本國ヨリ支拂フヘキコトヲ規定シ平和會議陸戰例規第五十七條及ヒ第五十八條ニ於テモ同一ノ規定アリ

交戰國ノ義務ヲ盡テスシテ中立國主權ヲ侵犯シタル場合ニ於テハ國ヨリ其敵

濟賠償ヲ爲スヘキ責任ヲ有ス然レトモ其救濟賠償ノ方法ハ國際公法上一定シ  
 タルモノナシ但シ中立國版圖内ニ於テ交戦國ノ海上捕獲ヲ行ヒタルトキハ其  
 船舶並ニ積荷ヲ悉ク中立國ニ引渡スヘキコトハ既ニ一定シ中立國ハ之ヲ自國  
 ノ法令ニ依リ又ハ行政處分ヲ以テ其原所有者ニ引渡スヘキモノタリ而シテ斯  
 ル違反ノ行爲ニ對シ交戦國ノ中立國ニ爲スヘキ謝罪償金其他名譽ニ對スル救  
 濟ノ形式等ニ付テハ一定シタルノ法則ナク又一定シ得ヘキモノニ非スシテ各  
 侵犯ノ場合ニ付キ事體ノ輕重ニ因リ當事者間ノ談判ニテ定ムヘキモノトス千  
 八百六十四年十月ブラジル國「ロヤ」港ニ於テ米國北軍軍艦カ南軍軍艦「フロ  
 リダ」號ヲ拿捕シタルニ對シ「ブラジル」國ノ抗議ニ因リ米國政府ハ拿捕ヲ爲セタル  
 「ラチセツ」號ノ艦長ヲ軍法會議ニテ罰シ「パビヤ」港在留米國領事ハ拿捕ヲ救済  
 ノ故ヲ以テ免職セシメ拿捕ヲ行ヒタル場所ニ於テ「ブラジル」國旗ニ禮砲ヲ爲シ  
 「フロリダ」號ハ航海中沈没シタル爲メ「ブラジル」國ニ引渡スコト能ハサリシカ其  
 海員ハ總テ解放セルハ其一例ナリ  
 然レトモ交戦國ハ戰爭ノ避クヘカラサル必要ニ迫リ中立國主權ヲ侵犯スルハ

咎ムヘカラスセテ戰地ニ於ケル中立國ノ物件ヲ戰鬪ノ進行上破損スルハ咎ヘ  
 カラサルコト一般ノ原則上疑ナキ所ナレトモ船舶其他ノ財産ニシテ其地ヲ通  
 過スルカ如キ戰地ニ固著セタル中立國ノ物件ニハ故意ニ戰鬪行爲ヲ及ボス能  
 ハサルヲ通則トスルニ拘ラス交戦者ノ必要ニ迫リテハ斯ル物件ヲ使用又ハ破  
 損スルコトアリ千八百七十年獨逸軍ハ佛國砲艦「セイイン」河ニ上リ來ルニ際シ  
 「ジユクレーヤ」ニ於テ六艘ノ英國商船ヲ沈メテ之ヲ防キ又同戰爭中「アルサス」州ニ  
 於テ六百乃至七百輛ノ列車ニシテ瑞西國鐵道會社ニ屬スル物ヲ軍用ニ供シ埃  
 國ノ列車ヲモ戰争用ニ充テタルハ其實例ニテ斯ル場合ニ於テハ中立國ニ對シ  
 固ヨリ賠償スヘキノミナラス法理上ヨリ論スルトキハ斯ル行爲ハ決シテ正當  
 ト爲スコト能ハスシテ「フヒリモール」ハ曰ク例ヘハ箇人ノ生命ヲ防禦スル爲メ  
 隣人ノ馬又ハ武器ヲ收用スルカ如キ切迫シタル事情アルニ非サレハ決シテ之  
 ヲ許スヘカラストシ「ダナ」ハ之ヲ交戦者ノ權利ト爲サスシテ必要ニ迫リタルト  
 キニ於テ斯ル行爲ニ出ツルモノハ其謝罪ト賠償ヲ爲スヘク之ヲ拒ムニ於テハ戰  
 争ノ危險ノ伴フヘキモノト説キタレトモ近世ノ實例ヲ於テ之ト同一ノ行爲ヲ

ルヲ以テ觀レハ慣例上之ヲ不法ト謂フコト能ハス斯ク必要ニ迫リ戦地ニ固著セサル中立國ノ物件ヲ使用若クハ破損シテ咎ムヘカラサル例外ノ法則ヲ名ケテアンダリヤ法ト曰フ

### 第三節 交戰國ニ對スル中立國ノ義務

戰爭中中立國ノ有スヘキ義務ノ範圍ニ付テハ方今國際公法ニ於テ最モ不明瞭ヲ極メ學說鼓ニ實例ノ一定セサルモノ多シ既ニ其全體ノ法則ニ於テ一定セテルカ爲メ其適用上ニハ愈々範圍ノ明瞭ヲ缺キ居ルコトナレトモ其義務ノ大體ヲ總括シテ言ハハ直接又ハ間接ニ戰鬪ニ干與シ又ハ其一方ニ助勢シ若クハ人民ヲシテ戰爭行爲ニ助力セシメサルト同時ニ交戰國ノ政府又ハ商人ヲシテ自國領土内ヲ戰爭行爲ニ使用スルヲ禁シ又其領土内ニ於テ戰爭準備ニ從事セシメタルニ在リ今其義務ヲ類別スレバ

第一 交戰國ノ一方ニ對シテ兵力ノ助勢ヲ與ヘス又一方ニ與ヘタル如何ナル待遇ヲモ他方ニ對シテモ拒ムコト能ハス

第二 交戰國ニ兵器金錢等荷モ戰鬪力ヲ助タル物件ヲ支給スヘカラス

第三 交戰國軍隊ニ對シ其領土内ヲ通行セシメス又領土内ニ於テ兵士ノ募集ヲ禁遏スルコト

第四 交戰國ノ代人若クハ其人民ノ中立國領内ニ於テ戰爭ノ準備ヲ爲サシメサルコト又軍艦其他戰爭ニ從事スル船舶ノ戰鬪力ヲ増加スルコトヲ許サス

第五 局外中立ノ義務違反ヨリ生スル直接ノ損害ハ被害國タル交戰國ニ對シ賠償スヘキコト

### 第一欸 戰爭行爲ニ干與又ハ助力スヘカラサル義務

局外中立ノ性質上中立國ハ軍艦又ハ軍隊ヲ以テ交戰國一方ヲ助勢スヘカラサルハ疑ナク其一方ニ對シ特別ノ便宜ヲ與フヘキ條約ノ存在スル場合ニ於テモ戰爭ニ際シテハ之ヲ實行スルコト能ハスシテ斯ル條約ヲ締結シ交戰國一方ニ

戰國力ヲ給與スルハ中立義務ノ違反トス隨テ千七百八十八年露國ト瑞典トノ  
 戰爭ニ於テ丁抹國ハ條約ニ基キ露國ニ兵士ヲ貸與ヘタルヨリ以來列國間斯ル  
 條約ヲ爲ス者ナク千七百七十八年米佛條約ニテ他國ノ軍艦其他ノ船舶ニ對シ  
 テハ戰爭中拿捕物ヲ率ヒテ自國港内ニ入り若クハ其港内ニ於テ斯ル船舶ヲ緘  
 鎖シ或ハ拿捕物ヲ賣却スルヲ許サス其航海ノ需用品ハ本國最近港ニ至ルニ必  
 要ナル物ノ外ハ買入ルルコトヲ禁スルニ拘ラス佛國船舶ニ對シテノミ之ヲ許  
 スヘキコトヲ規定シタリシカ千七百九十三年英佛戰爭中ニ於テ米國政府ハ此  
 條約ノ實行ニ付キ困難ヲ極メ英國政府ハ嚴シク之ニ抗議セタルヲ以テ千八百  
 年米佛條約ニテハ前條約ヲ改正シ斯ル偏重ナル規定ヲ削除シ今日ニ於テハ交  
 戰國一方ニ對シ待遇ヲ異ニスル條約ヲ締結スルモノナキニ至リ戰國用ノ船舶  
 兵器彈藥其他戰國ニ用フル物件又ハ金錢ヲ交戰國ニ給與スルハ中立義務ノ違  
 反ニシテ之ヲ貸與スルコトヲモ爲ス能ハス加之戰國用ノ物件ノ賣却スラモ國  
 際公法上禁スル所タリ然レトモ茲ニ注意ヲ要スルハ兵器其他戰國用ノ物件並  
 ニ金錢等ヲ交戰國一方ニ支給スル能ハサルハ中立國政府ノ義務ニシテ政府ニ

於テノミ之ヲ爲スヘカラサルニ止マリ中立國領内ニ在ル人民ニシテ箇人的ニ  
 之ヲ爲スニ於テハ中立國ハ其行爲ニ付キ何タル責任ヲ負フモノニ非ス但シ國  
 家ハ他國ノ戰爭中自國ノ兵器船舶等ヲ政府ノ都合ニ因リ公賣セントスルニ當  
 リテ交戰國ノ代人ニシテ之ヲ買入ルルノ恐アルトキハ其購買ヲ爲スヘカラサ  
 ルヤ否ヤニ付テハ問題ノ存スル所ナリ

千八百二十五年瑞典政府ハ海軍ヲ縮少スル爲メ六艘ノ軍艦ヲ西班牙政府ニ賣  
 却ヲ申込ミタリシカ之ニ應セザリシヲ以テ其三艘ヲ英國商人ニ賣渡シ同商人  
 ハ之ヲ墨西哥國ニ賣ラントセリ然ルニ當時墨西哥國ハ西班牙國ニ對シテ叛亂  
 ヲ爲シ居タルヲ以テ西班牙政府ノ抗議ニ因リ瑞西兩國ハ之ト墨西哥國ニ軍艦ノ  
 轉賣セラルヘキ事實ヲ知ラスシテ英國商人ニ賣リタルニ拘ラス其賣却ヲ取消  
 シ又千八百六十三年英國政府ハ老朽ノ砲艦ビクトル號ヲ一商社ニ賣却シタル  
 ニ其砲艦ノ米國南軍ノ手ニ入りタル事實アリタルヨリシテ同政府ハ南北戰爭  
 中他ノ軍艦ノ公賣ヲ中止セリ之ニ反シ千八百六十八年米國政府ハ舊式ノ兵器  
 及ヒ彈藥ヲ公賣スルコトヲ決定シ千八百七十年其公賣ヲ始メタルニ當時普佛

戰爭ノ爲メ之ヲ中止スル理由ナシトシ佛國政府ノ代人ハ米國ニ於テ大砲五十五門小銃三十七萬八千挺ヲ買入レ其代金ハ在紐育ノ佛國領事ヨリ米國政府ニ納メタリ此事件ニ關シ米國政府ノ理由トスル所ハ公賣ノ當時ニ於テ入札人ノ佛國代人ナルコトヲ知ラス若シ又之ヲ知リタリト假定スルモ米國政府ニ於テ兵器ヲ公賣ニ付スルコトト爲シタルハ普佛戰爭以前ノ行爲ニシテ偶千八百七十年ニ賣却ヲ始メタルハ其行爲ノ繼續ナルニ因リ之ヲ中止スヘキ義務ナキモノトセリ蓋シ此米國ノ行爲ニ付テハ學者ノ非難アリテ此點ニ關シテハ未タ一定ノ法則ナシト雖モ中立國ノ義務トシテハ其公賣ノ爲メ交戰國一方ノ戰闘力ヲ増加スルノ事實ヲ知リタルトキハ英國及ヒ瑞典國ノ如ク之ヲ中止スヘキモノノ如シ

中立國政府ハ交戰國ノ一方ニ對シテ金錢ヲ貸與スヘカラサルノミナラス千七百九十八年英佛戰爭中ニ於テ巴里駐劄米國公使ハ佛國ノ公債募集ニ關シテ其保證ヲ與フヘキ要求ヲ拒絕シタルハ學者一般ニ正當ト認ムル所ナリ然レトモ近世學者中ニ於テヌラ中立國ノ義務ト中立國人民ノ義務トヲ混同シ中立國人

民ヨリシテ交戰國ニ金錢ヲ貸與シ又ハ其公債募集ニ應スルコトニ異論ヲ唱フル者アレトモ中立國人民ノ金錢ヲ支給シ公債募集ニ應スルカ如キハ決シテ咎ムル所ニ非ス何トナレハ金錢ハ商業上物品ノ代用ニシテ總テ中立國人民ハ之ヲ使用シテ戰爭中ト雖モ交戰國雙方ト商業ヲ繼續スルモノナルニ因リ苟モ商業ヲ中止セザル以上ハ金錢ノ流出流入スルハ中立國ト交戰國トノ間ニ免ルルト能ハサル所ナリ又交戰國ノ公債ノ一度市場ニ現ハルルトキハ之ヲ賣買スルハ諸國民ノ自由ニシテ縱令中立國ニ於テ其人民ノ公債賣買ヲ禁セントスルモ決シテ爲シ能ハサル所ナルニ因リ中立國ハ斯ル人民ノ行爲ニ付キ何タル義務ヲ有スルモノニ非ス單ニ戰爭ノ費用ヲ補助スル爲メ中立國人民ヨリ交戰國ニ金錢ヲ輸入スル如キハ之ヲ戰時禁制品トシテ敵國ハ海上ニ於テ捕獲スルノ危險自ラ伴ヒ居ルニ過キス此道理ハ單ニ金錢ニ限ラス兵器彈藥其他軍用品ノ賣買ニ付テモ同一ニシテ中立國政府ハ其賣買讓渡ニ關スル公ノ手續ヲ爲スヘカラサルニ止マリ千八百八十五年阿片戰爭ニ於テ米國政府ハ上海ノ自國領事ニ訓令シテ佛國ニ對スル戰闘ニ使用スル爲メ清國ニ向ヒ米國商船ノ讓渡ヲ公認

五へカラスト爲シタルニ止マリ米國人民ノ賣買ヲ禁セザリシヲ以テ觀ルモ之ヲ證スルニ足ルヘシ

### 第二款 中立國版圖内ヲ戰爭行爲ノ用ニ供セシメサルノ義務

「プロシユース」ハ交戰國軍隊ノ中立國ヲ通過スルハ其權利ト認メ中立國ニ於テ正當ノ理由ニ因リテ之ヲ拒ム場合ニ非サレハ強迫的ニ通過スルヲ得ルモノトナシ「ベナル」モ中立國版圖内ニ於テ交戰國ハ兵士ヲ募集シ得ヘク其兵士ハ軍隊ノ主要ナル部分ヲ占メサル以上ハ中立國ニ於テ之ヲ許可シタルカ爲メ何タル義務ヲ負フコトナシトシ軍隊ノ通過ニ付テモ其許可ヲ交戰國雙方ニ對シテ爲ストキハ中立タルニ妨ケナシト論シ近世學者中ニ於テモ「ホイットン」如キハ軍隊通過ノ權利ヲ認メ之ヲ不完全ナル權利ト名ケ中立國ノ意思ニ反シ強行スヘカラスト爲シタルニ過キス又「マンニング」「フヒリモー」モ中立國ハ同一ノ許可ヲ交戰國雙方ニ與フルトキハ中立タルニ妨ケナシト説ケリ然レトモ之ニ反對ノ學說ハ却テ有力ニテ「ヘフラル」「ブルンチユリ」「カルボ

ー」「ホール」等 學者ノ多數ヲ占メ交戰國ノ中立國領内ニ於テ兵士ヲ募集スル能ハス中立國モ之ヲ禁止スヘキ義務アルコトハ第十八世紀中ヨリシテ諸國ノ認ムル所ト爲リ今日ニ至リテハ亦疑ナキモノトス凡ソ中立國領内ヲ交戰國軍隊ノ通過ニ關シテハ中立國ニ於テ交戰國間ニ於ケル戰爭ノ進行上利害關係ノ同一ナル事情ノ下ニ交戰國雙方ノ軍隊ヲ通行セシムル能ハサルノミナラス戰爭ノ勝敗ニ大關係ヲ有スル瞬間ニ於テ交戰國一方ニ軍隊ノ通過ヲ爲サシムルハ戰闘ヲ助勢スルモノナラサルヲ得ス加之其軍隊通行ヲ許ス行爲自體ハ其性質上戰爭ノ進行ヲ助ケルモノナルヲ以テ中立ノ性質ニ反スルモノトス隨テ千八百十五年ニハ埃國軍隊カ瑞西國ヲ通過シテ佛國領土ヲ攻撃シタルコトアレトモ千八百七十年ニ於テハ「アルサス」州ノ兵士ニシテ佛國陸軍本隊ニ合併スル爲メ瑞西國ノ版圖ノ通行ヲ求メタルニ同國ハ斷然之ヲ拒絕セシ兵器ヲ携帯セズ軍服ヲ著セサル者ニ非サレハ其通行ヲ拒ミ又白耳義國モ「セダン」戰爭後獨逸軍隊ノ負傷者多數ヲ有シ困難シタルニ拘ラス自國鐵道ヲ其負傷者ノ運搬ニ用フルコトスラ之ヲ拒ミ佛國ハ當時若シ白耳義國ニ於テ其通過ヲ許サハ中立

違反タルコトヲ公言セリ但シ中立國ハ交戰國ニ對シテ其通過ヲ許シ得ヘキヤ否ヤニ付テハ其後學者間ニ議論ヲ生シ途ニ「ブルッセル」宣言第五十五條ニ於テ中立國ハ交戰國軍隊ニ屬スル病者負傷者ヲシテ版圖内ヲ通過スルヲ許シ得ヘシ尤モ其運搬ノ列車中ニ戰闘ニ關スル人又ハ物ヲ積込マサル場合ニ限ルヘク又病者負傷者ノ通過ヲ許スニ付テハ中立國ハ其運搬ノ安全及ヒ之カ監督ニ必要ナル手段ヲ講スルノ義務アリト規定シ平和會議ノ陸戰例規第五十九條ニ於テモ之ト同一ノ規定アリ隨テ方今ニ於テハ交戰國軍隊ノ中立國ヲ通過スルハ病者負傷者ノ外ハ總テ不法ト看做サレ千八百七十七年墨西哥軍隊ノ反亂者ヲ追擊シテ「チキザス州」ニ入りタルニ當リテモ米國政府ヨリ激烈ノ抗議ヲ來セリ之ニ反レテ同年露土戰爭ノ初ニ於テ露國ハ「ルーマニヤ」國トノ條約ニ因リ土國ヲ攻撃ノ爲メ同國領内ヲ通過セテ露國軍隊ノ其道路鐵道電信等ヲ自由ニ使用スヘキコトヲ約定シ五十萬ノ兵士ハ「ルーマニヤ」ヲ通過シテ「ブルガリヤ」國ニ侵入シタルノ事實アリト雖モ是レ全ク歐洲東方ニ於ケル國際公法上ノ例外ナルノミナラス「ルーマニヤ」國ハ當時土國ノ屬國ニシテ獨立セントシタルモノナル

ニ因リ露國兵士ノ之ヲ通過シタルハ名義上ヨリ言ヘハ敵國領土ニ入りタルモノト同シク又「ルーマニヤ」國モ其獨立ヲ爲サントスルニ付キ露國ヲ助ケ先ツ軍隊ノ通過ヲ許可シテ直チニ自國兵士ヲ以テ露國ニ同盟シタルモノナルニ由リ猶ホ日清戰爭ニ於テ我軍隊ノ朝鮮ヲ通過シタルト異ナルコトナク此例外ヲ見テ直チニ之ヲ中立國ニ關スル法則ト論定スルコト能ハス  
交戰國一方ノ軍隊ニシテ敵軍ノ爲メニ追擊セラレ中立國ニ入ルヲ許ス場合ニハ戰爭ノ終リマテ其兵士ヲ留メ置クヘキ義務アルコト既ニ述ヘタルカ如ク此場合ニ於テ軍隊ハ俘虜ヲ携帶スルヲ許サスシテ俘虜ヲ有スルトキハ中立國版圖内ニ入ルヤ否ヤ自由ノ身體ト爲ルヘキモノトス然レトモ軍艦ニシテ俘虜ヲ以テ中立國港内ニ入ルトキハ其艦内ニ在ル間ハ中立國ノ干渉スルヲ許サス若シ俘虜ニシテ艦外ニ出ツルトキハ交戰者ハ中立國版圖内ニ於テ捕フルコト能ハス中立國モ亦之ヲ捕ヘテ軍艦ニ引渡スハ中立義務ノ違反トス又中立國版圖内ニ於テ交戰國カ兵士ヲ募集スル權利ナキコトニ付テハ第十八世紀ニ於テ其議論岐レ瑞典國ハ常ニ隣國トノ條約上兵士ヲ交戰國ニ給シ來リシカ千八百五十九



年以來ハ英國其他歐洲大陸ノ之ニ干渉シ同國ヲシテ其人民ニ對シ外國軍隊ヲ入ルコトヲ禁スルノ法律ヲ發布セシメタルト同時ニ他國ニ於テモ其戰爭ニ瑞西國ノ兵士ヲ使用スルヲ禁スルニ至リ今日ニ於テハ中立國ニ於テモ兵士ノ募集ヲ禁スヘキ義務明カナルニ至レリ

交戰國ハ中立國ノ領土領海ヨリシテ武裝ノ遠征ヲ爲スヘカラサル義務ヲ有スルト同時ニ中立國モ亦其版圖内ニ於テ武裝ノ遠征ヲ爲ス者ヲ禁止スヘク又其版圖内ニ於テ交戰國軍艦其他戰國用ノ船舶若クハ軍隊ノ戰鬪力ヲ増加セシムヘカラサル義務ヲ有シ交戰國一方ニ反對シテ戰爭ノ爲メ人民團體ノ組織シタル海陸軍兵士ノ出發スルヲ防クヘキモノニシテ其版圖内ノ人民ヲシテ嚴正ニ中立ヲ維持セシムヘキモノトス隨テ交戰國軍艦等ノ其領土内ニ於テ兵器ヲ增加スル如キハ之ヲ禁止スルノ義務アリテ其水兵ヲ募集スルカ如キ行為ヲ爲サシメサルニ付キ相當ノ方法ヲ講セサルヘカラス而シテ中立國モ常ニ此點ニ付テハ自國ノ權利ヲ侵害セラルルヲ防クノ手段ヲ取ルコトヲ努メ米國ニ於テハ千八百十八年法律ヲ以テ其版圖内ノ人民ニシテ交戰國船舶ノ港内ニ在ル者ニ

中立國ノ領土内ニ於テ戰爭行為ヲ爲スコトアリ然レトモ交戰國ノ雙方又ハ一方カ中立國ノ領土内ニ於テ或ハ戰爭行為ノ準備ヲ爲シ或ハ現ニ戰爭行為ヲ爲シ若クハ既ニ始メタル戰爭行為ヲ繼續スル場合ニ於テ中立國カ之ヲ禁止セザルトキハ中立義務ノ違反ト爲ルコト勿論ナリ此義務ニ關シ多少問題ト爲リ得ハ海戰ニ於テ中立國ノ領海ニ逃入リタル船舶ハ交戰國ノ一方ニ於テ之ヲ追索スルコトヲ得ルヤ又之ヲ捕獲スルコトヲ得ルヤ否ヤノ點ニ在リ昔時ニ於テハ公海ヨリ追跡シタル場合ニ於テハ中立國ノ領海内ニモ之ヲ繼續スルコトヲ得ルカ如ク説明セシモ今日ニ於テハ全ク之ヲ爲スコトヲ得ス中立國ニ於テモ之ヲ爲サシメサルノ義務アリトセリ而シテ此場合ニ於テ中立國カ兵力ヲ備ヘシテ追擊スル船舶ヲ斥クルコト能ハサルトキト雖モ尙ホ此追擊ヲ爲スコトヲ得ナルコトト爲レリ

- (イ) 領土以外ニ於テモ交戰行為ニ關係セサルコト就中一方ノ害ト爲ルヘキ事ヲ爲ササルコト
- (ロ) 中立國ハ交戰國ニ對シ完全ナル不偏ノ地位ニ立ツコト

此等ノ點ニ付テハ理論上ニ於テモ多少議論アルコト多シ先ツ其疑ナキ場合ヲ示セハ一方ノ利益ト爲ルヘキ行爲例ヘハ交戰國ノ一方ニ對シ軍港ヲ讓渡シ又ハ武器糧食等ヲ給與シ又ハ戰爭資金ヲ貸與スルカ如キハ則チ一方ヲ補助スル行爲ナルヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス而シテ多少疑アル場合ヲ示セハ

(二) 中立國ハ交戰國ノ一方又ハ雙方ヲシテ其領土内ニ於テ兵員ノ募集ヲ爲サシムルコトヲ得ルカ 此點ニ付テハ多少沿革アリ昔時ニ於テハ交戰國ノ一方ニ第三國カ兵衆ヲ貸與セシコト稀ナリトセス曾テ英獨二國カ條約ヲ締結シテ獨逸ヨリ英國ニ兵員ヲ貸與セシコトアリ又前ニ述ヘタル瑞西ノ如キモ其適例ナリ此等ノ實例ハ敢テ交戰國ノ一方ニ加擔スルノ意思アリシニ非ス唯其兵力ヲ誇ラシカ爲メニ之ヲ貸與セシノミ故ニ之カ爲メニ交戰國ト看做サナリシナリ然ルニ今日ニ於テハ中立ノ原則明白ト爲リ中立國ハ其領土内ニ於テ交戰國ノ一方カ兵員ヲ募集シ又ハ中立國ノ臣民カ其募集ニ應スルコトヲ禁セサルヘカラス故ニ一國カ中立ノ宣言ヲ爲ス場合ニ於テハ多クハ此事ヲ包含セリ尙ホ此點ニ付テハ屬實例ヲ生シタルコトアリ例ヘハ佛國革命後歐洲諸國ノ變亂ヲ

起シタル際交戰諸國カ米國ニ於テ兵員ヲ募集セシニ合衆國ハ之ニ反對シタリ其後米國ハ特別法ヲ發布シ(千七百九十四年及千八百十八年)總テ此等ノ行爲ヲ以テ中立違反ノ行爲ト定メタリ又英國ハ千八百十九年ノ法律ヲ以テ英國臣民ハ英國ノ領土内ニ於テ交戰國ノ募集ニ應スルコトヲ得ストモリ又千八百七十年佛國カ瑞西ニ於テ兵員ヲ募リシニ瑞西ハ之ヲ禁セシコトアリ故ニ今日ニ於テハ此原則ハ極メテ明白ト爲レリ然ルニ尙ホ一步ヲ進メテ中立國ノ臣民カ交戰國ノ軍隊ニ加ハリテ戰爭ヲ爲ストキハ如何ナル取扱ヲ受クルカ或ハ不正ノ行爲ナリトシテ戰時法ノ上ニ於テ正式ノ交戰者ト認メス普通ノ犯人ト看做スヤ否ヤ交戰者ニ非サル者ハ俘虜ノ取扱ヲ爲サス普通ノ犯罪者ト看做シ軍法ニ照シテ之ヲ處罰ス是レ固ヨリ中立義務ノ違反ナリト雖モ等シク交戰者ナルカ故ニ軍人トシテ取扱ハサルヘカラス之ヲ普通ノ犯人トシテ取扱フコトヲ得ス然ラハ此種ノ違反行爲ハ如何ナル制裁ヲ受クルカ此違反行爲ノ制裁ハ一切所屬國家ノ保護ヲ受クルコトヲ得サルニ在リ隨テ或ハ捕虜ト爲リテ甚キキ虐待ヲ受クルモ其所屬國家ハ更ニ之ヲ顧ミサルナリ

(二) 中立國ハ其領土内ニ滞在セル交戰國ノ臣民カ兵役ノ爲メニ召遣セララルコトヲ差止メサルヘカラサルカ 千八百七十年普佛戰爭ノ際多クノ獨逸人米國ニ滞在シ其本國ノ召遣ニ應ジテ歸國セントスルニ當リ米國ニ於テ之ヲ差止メサルヘカラサルヤ否ヤノ問題ヲ生シタリ若シ之ヲ放還スルヲ以テ中立義務違反ナリトセハ之ヲ運送セタル船舶モ亦違反行爲ヲ爲シタルモノナリ然ルニ此問題ハ今日ニ於テハ殆ト問題ト爲ラス何トナレハ今日ニ於テハ交戰國相互ノ間ニ於テモ自國ニ滞在セル敵國人ノ歸國ヲ許セリ況ヤ中立國ニ於テ之ヲ許スコトヲ得ルハ論ナクレハナリ殊ニ兵役ハ臣民當然ノ義務ナルカ故ニ荷モ中立國ニ於テ僱類ノ處置ヲ爲ササル以上ハ中立義務違反ニ非ストセリ

(三) 中立國ハ自國ノ港灣ニ於テ交戰國一方ノ軍艦カ航裝ヲ爲シテ出帆スルヲ差止メサルヘカラサルカ將タ之ヲ默許スルコトヲ得ルカ 是レ亦今日ニ於テハ既ニ決定セラレタル問題ナリ即チ今日ニ於テハ中立國ノ港灣ニ碇泊セル交戰國ノ軍艦又ハ捕獲船舶カ航裝シテ出帆セントスルトキハ中立國ニ於テ容易ニ之ヲ知ルコトヲ得ヘク又之ヲ禁止ムルコト容易ナルカ故ニ之ヲ差止メサルハ

中立義務違反タルコトニ一定セリ彼ノ有名ナルアラバマ事件ニ付キ其實例ヲ生シタリ即チ米國南北戰爭ノ際南軍ノ港灣ハ北軍ノ爲メニ概テ封鎖セラレ南軍ハ其港灣ニ於テ船舶ヲ造リ之ヲ戰爭ニ用フルコトヲ得タリシヲ以テ英國ニ注文シ十隻ノ軍艦ヲ造ラシメシカ其一隻竣工シテ出帆スルニ際シ合衆國政府之ヲ探知シ英國ニ注意ヲ與ヘタリ然ルニ英國ハ之ヲ用ヒスシテ出帆セシメタルノミナラス其後數隻ノ軍艦竣工シ英國ニ於テ航裝ヲ爲シ戰爭ニ加ハリ大ニ北軍ヲ惱マセ北軍ハ之カ爲メニ非常ノ損害ヲ被レリ其一隻ノ名ヲ「アラバマ」ト云フ戰爭終了ノ後遂ニ國際問題ト爲リ合衆國ハ英國ノ處置ヲ以テ中立義務違反ナリト主張シ英國ハ之ニ反對ヲ唱ヘ千八百七十一年華盛頓府ニ於テ一ノ條約ヲ締結シ之ヲ仲裁ニ付シタリ其條約ハ學問上頗ル有益ナルモノニシテ英米兩國間ニ於テ以後此ノ如キ事件起ルトキハ必ス仲裁ニ付センコトヲ約シ且ツ之ヲ仲裁ニ付スルニ當リテハ條約中ニ規定セル方法ニ依ランコトヲ約セリ仍テ五人ノ委員英ヨリ一人米ヨリ一人他ノ國ヨリ三人而シテ其一人ハ「ブラジル」帝ノ選定ニ任シ他ノ一人ハ以太利王餘ノ一人ハ瑞西ノ大統領ノ選定ニ任セ

リヲ選定シ委員ハ瑞西ノ「デユキョー」ニ會シ之ヲ評議セシニ根本ヨリ議論アリ  
テ之ヲ決スルコト困難ナリヲ以テ豫メ左ノ原則ヲ議決セリ

- 第一 中立國ノ政府ハ交戦ニ加ハル者ト正當ニ信シタル船舶ノ機銃ヲ差止  
メサルヘカラス且ツ其出帆ヲ差止メサルヘカラス
- 第二 中立國ハ交戦國ノ一方ニ對シ自己ノ領土内ニ於テ如何ナル交戦行爲  
ヲモ爲サシムヘカラス又交戦國ヲシテ糧食兵器等ヲ積込マシメ戦員ヲ募  
集セシムルコトヲ得ス
- 第三 總テ中立國ハ自國ノ領土内ニ於テ前ニ述ヘタル義務ノ違反アル場合

ニハ十分ナル注意ヲ以テ急速ニ之ヲ差止メサルヘカラス  
此原則ニ付テハ後日多少議論アリシカ列國會議ニ於テモ正當トシテ決議セラ  
レ一般ノ學者モ之ヲ中立規則トシテ是認シタリ  
乃チ委員會ハ右ノ三原則ヲ根據トシテ取調ニ從事シ種種議論ノ末英國ハ商業  
ノ損害ヲモ償フヘキヤ否ヤニ付キ議論アリ又委員會カ此ノ如キ事項ヲ決スル  
ノ權限アリヤ否ヤニ付テモ議論アリ遂ニ權限アリトセリ翌年ノ春ニ至リ之ヲ

決定セリ而モ非常ニ多額ナル損害賠償ノ義務ヲ英國ニ負擔セシメタリ即チ金  
貨千五百五十萬弗ノ巨額ナリシカ英國ノ委員一人ノ反對アリシノミニシテ他  
ノ委員ハ皆之ヲ是認シタリ此仲裁ハ仲裁ノ最モ大ナル實例ナリ然ルニ極メテ  
喜フヘキハ英國ニ於テ異議ナク其全額ヲ支拂ヘリ而シテ此裁判ハ終審ノ裁判  
タルコトヲ豫メ約束セシヲ以テ事局全ク終結スルニ至レリ

(四) 中立國ハ交戦國ノ軍隊ヲシテ其領土ヲ通過セシムルコトヲ得ルカ 昔時  
ノ學者「グロシウス」「ウォル」等ハ之ヲ爲スコトヲ得ヘシト云ヘリ殊ニ中立國  
ニ於テ之ヲ拒ムモ交戦國ノ一方ハ之ヲ通過セシムルコトヲ得ト云ヘリ而シテ  
其理由トスル所ハ國際交通ノ必要ト云ヘル點ニ重ヲ置キシモノナリ降テ「ヴツ  
タル」等ノ學者ハ多少ノ變更ヲ加ヘテ此說ヲ維持セリ而シテ其變更トハ一應中  
立國ノ承諾ヲ求メサルヘカラス然レトモ若シ故ナク之ヲ承諾セサルトキハ最  
早之ニ拘ラス通過シテ可ナリト云フニ在リ然ルニ此舊說ハ今日ニ於テハ殆ト  
顧ミル者ナキニ至レリ何トナレハ中立義務ノ原則トシテ中立國ハ交戦國ノ一  
方ニ便益ヲ與フルコトヲ得サレハナリ又或ハ交戦國ノ雙方ニ對シテ同一ノ事

項ヲ許セハ敢テ中立義務違反ニ非ストノ説ヲ爲ス者アレトモ雙方ニ對シテ同一ノ助勢ヲ爲スモ等シク中立義務ノ違反ナリ即チ假令雙方ニ同一ナリト云フモ利害ノ關係同シカラス隨テ不公平ナル結果ヲ生スルコトアルカ故ニ今日ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ストセリ

(五) 捕虜ノ運送又ハ負傷者ノ運送ハ中立國ノ領土内ニ於テ之ヲ爲サシムルモ中立義務違反ニ非サルカ 第一ニ捕虜ニ付テハ中立義務違反タルコト論ナシ何トナレハ捕虜ヲ運送スルニハ相當ノ護衛ヲ要スルカ故ニ之カ爲メ其兵員ヲ使用セザルヘカラス然ルニ中立國ニ於テ之カ運送ヲ爲ストキハ別ニ護衛ヲ要セザルカ故ニ其兵員ハ悉ク戰爭ノ爲メニ使用スルノ便益ヲ得レハナリ次ニ負傷者ノ運送ハ如何シレ亦運送ノ機關ヲ利用スルコトヲ得ルニ付テハ捕虜ノ場合ト同一ナリ然レトモ之ニ多少仁愛ノ思想ヲ加ヘ實際上ニ於テハ之ヲ許スモ中立義務違反ニ非ストセリ殊ニ負傷者ニ付テハ捕虜ト異ナリ之ヲ護衛スルノ要ナク且ツ今日ニ於テハ負傷者ハ赤十字社ナルモノアリテ敵味方ノ區別ナク相當ノ取扱ヲ爲セ而シテ之ヲ取扱フ者ハ戰爭以外ニ立テアルカ故ニ之ヲ許スモ戰

爭ニ影響ナシ此等ノ點ヨリシテ今日ニ於テハ之ヲ爲スモ中立義務違反ニ非ストセリ(普佛戰爭ノ際ノ如キ瑞西ハ普佛雙方ノ負傷者ニ通過ヲ許シタリ)

(六) 中立國ノ領土ハ交戰國ノ戰爭ノ根據地ト爲スコトヲ得ス然ラハ交戰國一方ノ軍隊カ敗北シテ中立國ニ投シ來リシ場合ニ於テ之ヲ受クルコトヲ得ルカ此點ニ付テハ一度逃入リタル後再ヒ出テテ戰フ如キハ勿論之ヲ許サスト雖モ敗餘死ニ瀕シテ逃込ミタル場合ニ於テ之ヲ斥クルハ稍ヤ殘刻ナリ故ニ境ヲ超ニテ投シ來ル者ハ之ヲ容レテ可ナリトセリ隨テ再ヒ交戰ニ加ハラサル注意ヲ施ササルヘカラス即チ第一ニ軍隊ノ兵器彈藥ヲ奪ヒ第二ニ其軍人ハ成ルヘク交戰ノ地ヨリ遠キ場所ニ置カサルヘカラス而シテ戰爭終了シ平和ノ回復ニ至ルマテ之ヲ抑留セザルヘカラス普佛戰爭ニ際シテハ瑞西ハ耳義等ニ於テ實際ニ行ハレ今日ニ於テハ既ニ慣例ト爲レリ

右ノ如ク逃亡ノ軍隊ヲ容レタル場合ニ於テ若シ其軍隊カ再ヒ戰爭ニ臨マンントスルトキハ如何スヘキカ交戰者ノ捕虜ノ取扱ト同一ニスヘキカ是レ亦實際問題ニシテ要スルニ程度ノ問題ナリ故ニ之ヲ理論上ヨリ區別スルハ困難ナルモ

一二ノ目的上ヨリ異ナル所ヲ述フレハ即チ敵國人ノ捕虜ハ自己ニ敵對スルコトヲ防クナリ隨テ其逃走等ニハ非常ノ注意ヲ用ヒ強テ命ニ反セハ軍法ニ照シテ殺スモ可ナリ之ニ反シ逃走シテ中立國ニ在ル兵士ハ自己ノ國ニ敵對スルモノニアラス唯故ラニ之ヲ保護シテ交戰國一方ノ幫助ト爲ラサルヲ努ムルノミ故ニ注意ヲ用フルニ拘ラス逃走スルモ之ヲ殺スコトヲ得ス此他ハ大體ニ於テ同一ナリ

又逃走シ來ル軍隊カ敵國ノ捕虜ヲ引卒セルトキハ如何先ニ逃ヘタル如ク中立國ハ捕虜ノ通過ヲ禁セサルヘカラス隨テ中立國ニ入ルニ際シ之ヲ解放セシムヘキカ將テ逃走ノ兵士ト共ニ國內ニ入レテ可ナルヤ是レ多少疑問ト爲レル點ニシテ之ヲ實際ニ徵スルニ普佛戰爭ノ際ニハ瑞西ニ於テ之ヲ解放セシコトアリ然ルニ佛國ハ之ニ異議ヲ唱ヘタリ今日ニ於テモ學者間尙ホ議論アリ佛國學者ハ逃走兵ト共ニ其國ニ引止メサルヘカラス之ヲ解放スルハ一方ノ勢力ヲ増スモノナリト云ヘリ

又一箇人トシテ逃込ミタルトキハ如何此場合ハ殆ト疑ナク之ヲ收容スルモ中

立義務違反ニアラスト決定セリ然レトモ是レ亦武器ヲ執リテ再ヒ戰場ニ向ハントスルトキハ之ヲ制止セサルヘカラス即チ其武器ヲ剣キテ抑留セサルヘカラス實際ニ於テ此ノ如キ例多シ

(七) 交戰國ハ中立國所屬ノ港灣其他ノ領海内ニ自國ノ船舶ヲ集合セシメ又ハ停船レテ敵船ヲ要撃スルコトヲ謀リ又ハ武器ヲ積込ミ又ハ兵員ヲ乗込マシムルコトヲ得ス然ラハ交戰國ノ船舶ハ全ク中立國ノ領海内ニ入ルコトヲ得サルカ換言スレハ中立國ハ交戰國船舶ノ其領海内ニ入ルコトヲ拒絕スルノ權アリヤ 中立國ハ其領海ニ對シテハ主權ヲ有スルカ故ニ交戰國船舶ノ出入ヲ禁スルコトヲ妨ケス但シ兩大洋ニ通スル航路タル海峽ハ縱令其兩岸カ中立國ノ領地タリト雖モ其通過ヲ禁スルコトヲ得ス然レトモ中立國ハ交戰國船舶ノ出入ヲ禁セサルモ中立國ノ義務ニ違反スルモノニアラス殊ニ交戰國軍隊ノ通過ヲ禁スルカ如キハ時トシテ到底行ハレサル事アリ今之ヲ各國ノ實例ニ徵スルニ或ハ其出入ヲ禁セシコトアリ或ハ全ク之ヲ禁セサリシコトアリ而シテ現今普通行ハルル所ニ據レハ交戰國船舶ハ或制限ノ下ニ於テ中立國ノ領海ニ寄港シ

用水ヲ酌入レ食物ヲ積込ミ又ハ船舶ノ修繕ヲ爲スコトヲ得ルコトヲ爲レリ但シ此等ノ點ニ付テハ中立國ハ交戰國雙方ニ對シテ偏頗ナキコトヲ要ス然リト雖モ交戰國ハ中立國ノ港灣ニ於テ兵器彈藥等ヲ積込ムコトヲ得ス中立國モ亦之ヲ禁スルノ義務アルモノトス

右ノ如ク中立國ハ交戰國雙方ノ船舶ヲ寄港セシムルコトヲ得ルカ故ニ動モスレハ其港灣若クハ領海ニ於テ衝突ヲ來スノ虞ナシトセス而シテ其衝突ヲ禁スルハ中立國ノ權利ナルト同時ニ其義務ナルカ故ニ中立國ハ十分ノ取締ヲ爲ササルヘカラス例ヘハ交戰國船舶ノ碇泊時間ヲ二十四時間以內ニ制限スルカ如キ又交戰國雙方ノ船舶カ同時ニ寄港シタルトキハ其解纜ニ二十四時間以上ヲ隔テシムルカ如キハ現今多數國ノ認ムル慣例ナリ

(八) 交戰國船舶ハ捕拿シタル敵船ヲ中立國ノ領海內ニ引致スルコトヲ得ルヤ否ヤ 是レ理論上頗ル疑ハシキ問題ニシテ今日ノ通説ニ據レハ捕拿シタル船舶ハ之ヲ中立國ノ港灣ニ引致スルコトヲ得サルモノトセリ而シテ其理由トスル所ハ若シ交戰國ノ一方カ敵國ノ船舶ヲ捕拿シテ最近中立國ノ港灣ニ引致シ

民ノ自由ニ干渉スルモノナルカ如シ

「スタイン氏ハ保安警察ヲ分テテ高等警察及ヒ簡人警察ノ二種ト爲シ其區別ヲ論シテ曰ク高等警察トハ人ノ集合ニ因リ公共ノ安寧ヲ害スルトキニ起ルモノヲ謂ヒ簡人警察トハ一人ノ資格ニ於テ危險ヲ生スル虞アル場合ヲ謂フト(イ)氏行政法第二〇八頁第二(二)シユルチユ」氏モ此說ヲ採レリ然レトモ此說ハ之ヲ正當ナリト謂フヲ得ス何トナレハ人ノ多少ハ毫モ此ニ關フ所ニアラサレハナリ一人ノ所爲ト雖モ國家ノ安寧秩序ニ關係スルトキハ即チ是レ高等保安警察ナリ左レハ國家ノ危險ヲ防ク場合ハ之ヲ高等保安警察ト謂ヒ一人ノ危險ヲ防ク場合ハ之ヲ簡人保安警察ト稱スヘキノミ然レトモ嚴格ニ論スルトキハ法理上兩者ノ區別ハ頗ル判然タラサル所ナリ猶ホ公法私法ノ區別ハ嚴格ニ公益私益ヲ以テ區別シ得ザルト同シク簡人ノ安全ト云フモ公ノ秩序ニ關スルコト猶ホ公ノ秩序ト云フモ簡人ノ安全ニ關スルカ如シ故ニ此區別ハ事實ニ據リテ判斷スルノ外ナキナリ寧ロ便宜ニ出テタル區分ナリト稱スヘキナリ

「ホルンハーグ氏ハ簡人保安警察ノ意義ヲ解シテ曰ク簡人保安警察トハ刑法上

處罰ズヘキ行爲ニ對シ之ヲ除去スルコトニ由リ公安ヲ維持スルニ在リ而シテ警察ニシテ既成ノ罪科ヲ探求スルト之ヲ未發ニ防クトニ因リ其作用ヲ分チテ二ト爲スヘキナリ除去警察及ヒ豫防警察是ナリ

第一

除去箇人保安警察ハ又之ヲ刑事警察ト曰ヒ處刑スヘキ行爲ヲ追求スルニ在リ(ハ其ゾイフズエルト兵刑事警察論スタングル兵國家學典第四卷第二〇頁)

第二

豫防箇人保安警察トハ罪科ヲ防ク爲メ處罰ノ行爲ヲ行フノ虞アル人ヲ監禁スルニ在リ而シテ此ノ如キ虞ハ或ハ其人ノ全キ生活關係ニ及フコトアリ或ハ重キ罪科ノ爲メ既ニ罰セラレタル人ニ對シテ存スルコトアリ保安警察制度ハ宜シク此等ノ場合ニ於テ其規定ヲ異ニスヘキナリ即チ第一ノ場合ニ於テハ此等ノ人物ヲ改良センコトヲ試ムルニ在リ第二ノ場合ニ於テハ再ヒ罪科ヲ企ツルコトナカラシメンカ爲メ警察監視ヲ行フニ在リ右ニ由リ豫防警察トハ或ハ改良警察タリ或ハ警察監視タリ(ボルンハク兵警國家學典第三卷第一七六頁第一頁)

是レ

是レ余輩ノ採用セル分類ト相容レナル所ナレトモ通常ノ學說ト稍ヤ趣ヲ異ニスルヲ以テ此ニ之ヲ紹介ス先ニ述ヘタルカ如ク我國ニ於テハ明治二十六年十月發布ノ地方官官制第十八條ニ依レハ各府縣警察部ニ於テハ高等警察行政警察及ヒ衛生ノ事務ヲ掌ルト云ヒ法文上ヨリ觀ルトキハ高等警察ハ司法警察及ヒ行政警察ト對峙スルモノニ似タリ左レハ此ニ行政警察ト稱スルハ明治八年行政警察規則ヨリ其意義ヲ狭クシ而シテ余輩カ法律上ノ觀察點ヨリ行政警察ト稱スルハ再ヒ其意義ヲ異ニス諸君ハ宜シク此區別ヲ混同セサルヲ要ス

右ニ由リ余ハ警察ノ分類ニ於ケル一般ノ學說ヲ說キ畢リタルヲ以テ是ヨリ左ニ公法大家ノ分類ノ重ナルモノヲ列舉シ此ニ此章ヲ終ラントス

第一「モール氏分類」

「モール氏分類」モール氏ハ法治國家ノ主義ニ據リ行政法ヲ論述セリ其意ニ曰ク各人ノ欲スル所ハ則チ社會全般ノ欲スル所タラザルヘカラス蓋シ國家ノ物タル衆人共同シテ生活シ以テ各人其欲スル所ニ從ヒ一切ノ能力ヲ自



由ニ行使スルニ在リ換言スレハ國家ハ此ニ各自ノ權利ヲ保護セサルヘカラ  
ス是レ所謂法治國ノ目的ニシテ氏ハ此理由ニ基キ人類一切ノ能力ヲ分類  
セリ

氏ハ保安警察ヲ以テ豫備司法ト名ケタリ其意蓋シ保安警察ノ目的ハ各人權  
利ノ毀損ヲ豫防スルニ在ルヲ以テナリ然レトモ司法ト警察トハ其性質全然  
異ナルモノニシテ其之ヲ混同スルハ誤謬タルヲ免レサルナリ

第一 人民身體上ノ能力ニ對スル國家ノ眷顧

一 戶籍

二 衛生

三 救助

第二 人民精神上ノ能力ニ對スル國家ノ眷顧

一 概論

二 教育

三 風俗

四 宗教  
五 技術

第三 豫防司法

其一 實質上ノ原則

一 國家權利ノ保護

二 簡人權利ノ保護

其二 形式上ノ原則

一 司法官廳及ヒ機關

二 執行方法

三 司法處分

第二「ブルンチユリー氏ノ分類」(同氏著「近世國家學」上巻)  
第二九〇頁以上

第一 高等警察

第二 簡人警察

一 飲食物警察

- 二 衛生警察
- 三 保安警察
- 三 教育警察
- 第四 經濟警察
- 第三 「スタイン」氏ノ分類(同氏行政法第二卷第三版下第)
  - 第一 保安警察
  - 第二 執行警察
  - 一 審問警察
  - 二 秩序警察
- 公共生活ノ秩序ヲ紊ス者アルトキハ縱令法ニ正文ナキ場合ト雖モ警察ハ之ニ干渉スルヲ得ヘキナリ刑法ニ明文アル場合ニハ固ヨリ之ニ依ルコト論ヲ待タサルナリ即チ彼ノ違警罪ノ場合ノ如キ是ナリ
- 三 施行警察
- 國家ハ絕對的自衛ノ途ヲ有ス故ニ警察ハ裁判所ノ命令ヲ待

トキハ又自ラ之ヲ行フモノトス

第三 行政警察

第四 「グオルグ、マイエル」氏ノ分類(同氏編乙行政法第一頁)

- 第一 保安警察
  - 一 危險ナル人及ヒ危險ヲ生スヘキ人爲ニ對スル警察
  - 二 通常保安警察
  - 三 一般保安警察制規
  - 四 或階級ニ對スル保安警察制規
  - 五 出版警察及ヒ集會警察
  - 六 非常保安警察
- 二 凶災事務
- 第二 行政警察
- 第五 「マツセル」氏分類(千八百八十五年編下第)
  - 第一 普通國家保安警察

第二 特種簡人保安警察

第一 人身保安警察 (十八歳以上二十五歳以下)

二 財産保安警察

第三 火災警察

第四 水上及河川警察

第五 貧民警察 (貧民救済ノ爲メ)

第六 道路警察 (道路ノ掃除及交通ノ維持)

第七 建築警察 (建築ノ監督)

第八 農業警察 (農業ノ保護)

第九 獸畜警察 (獸畜ノ保護)

第十 營業警察 (營業ノ監督)

第十一 家内ノ秩序

第十二 風俗及秩序警察

第十三 教育警察 (教育ノ監督)

ヲ列任待遇ノ監獄醫ハ恩給ノ恩ヲ得ル能ハス蓋シレ同一監獄醫ニシテハハ早任  
トシ一ハ列任待遇トスルコト既ニ權衡ノ宜ヲ得タルモノニアラス昔人ハ早職  
至ラシメメニ列任官タルニ歐洲諸國ニ於テハ近來監獄官吏ヲ以テ終身官タラシ  
ムヘシトノ論漸ク勢力ヲ占ムルニ至リ既ニ伊太利ニ於テハ之ヲ實行シ其他ノ  
諸國モ亦實際ニ於テハ著著此方針ヲ取ルモノノ如シ然ルニ瑞西ニ於テハ典獄  
ノ位置ヲ交迭スルコト頻繁ニシテ殆ト典獄ヲシテ初ヨリ一時假寓ノ位置タル  
ニ過キサルノ感アラシム米國モ亦政府ノ變更ニ伴ヒテ常ニ典獄ヲ交迭スルヲ  
例トス米國ニ於ケル監獄改良事業ノ漸次退歩ノ傾向アルヲ見ル所以ニシテ既  
ニ前章監獄歴史ノ條下ニ之ヲ詳述セリ

典獄直接ノ補助官トシテ往往副典獄ナルモノヲ設ケテ之ヲ大監獄ニ配置スル  
モノアリ英國佛國瑞西白耳義及ヒ伊太利ノ如キ即チ是ナリ我國ニ於テモ曾テ  
副典獄ノ設アリシカ今日ニ在リテハ全ク之ヲ廢止スルニ至レリ但シ北海道集  
治監ニ於ケル分監長ナルモノハ表面上或ハ副典獄ノ如キモノナリト雖モ實際  
ニ於テハ大監獄ノ署長即チ典獄トシテ之ヲ見ルヲ得ヘシ但シ分監長ハ高等官  
トシ其官等ハ八等ヨリ六等ニ至ル其他又歐米諸國ニ於テハ精神的教養ノ專分

テテ之ヲ德育教化及ヒ智育教育トシ僧侶及ヒ教師ノ官職ヲ設ケテ各別ニ之ヲ分掌セシムルヲ例トス

監獄ニハ監獄官吏ノ外向ホ一定ノ吏員ヲ置キ其事務ヲ補助セシム之ヲ總稱シテ備員ト名ク授業手女監取締押丁其他普通ニ所謂備員ナルモノ即チ是ナリ今日ニ在リテハ教誨師モ亦備員トシテ之ヲ認メタルヲ得ス但シ集治監ニハ押丁ヲ置カス地方監獄亦之ヲ置クハ一ノ便宜的變例タルニ過キス(二十七年内務省訓令第一號第三項)獨逸ニ於テハ監獄官吏及ヒ附屬備員ノ外向ホ軍隊ヲシテ監獄外部ノ警護ニ從事セシム此場合ニ於テハ士官及ヒ兵卒モ亦監獄事務補助吏員ノ一部トシテ之ヲ見ルヘキナリ蓋シ軍隊補助ノ事ハ監獄管理上利便ヲ得ルコト少小ニアラス我國ニ於テモ或一二ノ監獄集治監ニ少數ノ憲兵ヲ配置スルモノアリ吾人ハ尙ホ其範圍ヲ擴張シテ少クモ多數ノ拘禁囚ヲ有スル所ノ大監獄殊ニ北海道集治監大坂府監獄ノ如キニハ多少ノ軍隊ヲ派遣シテ其外部ノ警護事務ヲ補助スルニ至ランメンコトヲ希望ス

普國ニ於テハ典獄ノ外監獄官吏ヲ別テテ高級官吏及ヒ下級官吏ノ二種ト爲シ

理事書記教師教誨師及ヒ監獄醫ヲ高級官吏トシ看守長監長看守授業手及ヒ女監取締(女看守)ヲ下級官吏トス而シテ其下級官吏ナルモノハ宛モ我國ニ於ケル普通備員ノ如キ資格ヲ與ヘ純然タル官吏トシテ之ヲ待遇セザルモノノ如シ

制度如何ニ完全ナルモ構造如何ニ整備スルモ若シ監獄官吏其人ヲ得ルニアラサレハ遂ニ能ク其效ヲ全ウシ能ハサルヘキハ論ヲ俟タス是ヲ以テ監獄官吏ハ其高級タルト下級タルニ論ナク總テ一面ニハ成ルヘク其位置及ヒ支給俸給恩給遺族扶助等ヲ安全且ツ優厚ニシ一面大ニ其健康及ヒ能力ヲ精勵スル所ナカクヘカラス其位置ヲ低クシ其支給ヲ薄クシテ之ヲ待タンカ到底完全ナル高等人物ヲ得テ此ニ就任セシムルコトヲ得ス又健康及ヒ能力ヲ精勵ニ缺タル所アラシカ監獄ハ遂ニ朽敗賤劣ナル老物廢人其他凡百ノ下等人物發育院タルニ至ルヲ免レヌ

#### 第四節 官吏採用法

監獄學提要 監獄管理法 官吏採用法

監獄官吏ハ特別ノ技能ト熟練ヲ要ス是ヲ其任用法ノ如キモ亦特別ノ規定ヲ設ケテ之ニ適用スル所ナクンハアルヘカラス是レ即チ典獄及ヒ集治監分監長看守長並ニ監獄書記ニ付テハ特別任用例ノ規定アリ明治二十六年勅令第百九十六號三十年勅令第二百十五號同第二百五十五號三十二年勅令第百三十五號參看看守ニ對シテモ亦特別採用規則明治二十六年內務省訓令第二十六號ノ適用アル所以ナリ監獄官吏ノ任用ニ付テハ歐洲諸國ニ在リテ殊ニ最モ慎重ノ注意ヲ用フル所アルモノノ如シ普國バリエルン白耳義諸國ノ如キハ典獄ハ通例理事書記等ヨリ之ヲ推薦スルノ方針ヲ取リ理事及ヒ書記ハ先ツ相當ノ資格アル志願者ヲ試験シテ之ヲ見習トシ三箇月以上實務ヲ練習セシメタル上ニ於テ更ニ再ヒ精密ナル試験ヲ執行シ及第シタル者ハ則チ試験トシテ之ヲ任用シ缺員アルヲ俟テテ始メテ本官即チ理事若クハ書記ニ任命ス伊太利ニ於テハ監獄官吏修養練習ニ力ヲ盡スコト最モ深ク本官トシテ採用スルノ前先ツ學生年齡ハ十八歳以上三千歳以下ト爲シ高等中學ノ科程ヲ卒業シタル者ナルヲ要スレトテ少クモ六箇月以上監獄ニ於テ學術及ヒ實務ヲ練習セシメタル上ニ於テ試

験ヲ行ヒ及第シタル者ヲ以テ試験ト爲シ實務專修ノ後更ニ一箇年以上ヲ經テ最後ノ試験ヲ執行シ其及第者ヲ以テ始メテ之ヲ本官書記ニ任用ス普國ニ於テハ近來專ラ軍人ヨリ監獄官吏ヲ採用スルノ方針ヲ取レリ蓋シ軍人ハ唯リ監獄官吏ノ具備スヘキ諸般必要ノ能力ヲ修養セルノミナラス一方ニハ恩給等ノ點ニ於テ大ニ國庫ニ節減ヲ與フル所アルヲ以テナリ

戒護官吏殊ニ看守ハ之ヲ本務ニ任用スルノ前ニ於テ必ス先ツ之ニ一定ノ教習ヲ施スコトヲ要ス但シ如何ナル種類ノ階級ヨリ之ヲ選擇スルヲ要スヘキカ將タ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ教習シ任用スルヲ適當トスヘキカノ問題ニ付テハ尙ホ未タ區區ノ意見アルヲ免レス曩ニストツクフアルムニ於テ開設シタル萬國監獄會議ニ於テモ深ク此問題ニ付テ討論スル所アリシカ終ニ一定ノ決議ヲ見ルニ至ラス或ハ曰ク看守ハ須ク軍人ヨリ之ヲ採用スルヲ要ス或ハ曰ク職工ヨリ之ヲ任命スルヲ要ス或ハ曰ク教會出身ノ篤志家ヨリ之ヲ選擇スルヲ要スト蓋シ軍人ハ紀律執行ノ職ニ適スルモ作業督勵ノ任ニ適セス職工ハ作業督勵ノ任ニ適スルモ紀律執行ノ職ニ適セス教會出身ノ人物ハ献身以テ能ク改良威

化ノ難務ニ熱注スル所アルモ紀律ヲ執行シ作業ヲ督勵スルハ其短所タルヲ免  
 レス要スルニ全キヲ或限局シタル一種ノ階級ニ求ムルコト至難ナリト謂ハサ  
 ルヲ得ス獨逸等ニ於テハ専ラ軍人ヨリ採用スルノ方針ヲ取ルモノノ如シ蓋シ  
 看守ニ要スル勇壯活潑ニシテ事ニ對シテ恐怖スルコトナク剛毅果斷ニシテ能  
 タ紀律ヲ守リ命令ニ服従スルノ資性ハ軍人ノ特有スル所ナルカ故ニ之ヲ用  
 ルトキハ少クモ此點ニ於テ更ニ訓練養成スルノ勞ヲ省クノ利便アルヲ以テナ  
 リ之ヲ要スルニ少壯有爲成ルヘク或種類ノ工業ニ經驗ヲ有シ且ツ規定ノ兵役  
 ヲ了シタル教育アル人物ヨリ之ヲ採用スルコト必要ナリト信ス

### 第五節 看守教習法

看守教習訓練ノ方法ニ付テハ或ハ試験ノ上一旦採用シタル上ニ於テ更ニ若干  
 ノ間教習ヲ施シ之カ卒業ヲ俟テ始メテ事務ニ従事セムルアリ(第一)或ハ先  
 ツ志願者ヲ募集シテ之ヲ教習所ニ入學セシメ一定ノ間教習ヲ加ヘタル後ニ於  
 テ之ヲ試験シ更ニ其及第者ヲ選抜シテ之ヲ採用スルモノアリ(第二)或ハ特設看

守學校ノ卒業生中ヨリ之ヲ任用スルモノアリ(第三)或ハ或特定シタル中央模範  
 監獄ニ於テ試用ヲ終ヘ其適任者ト認メタル者ヲ採用シテ之ヲ各監獄ニ分遣ス  
 ルモノアリ(第四)我國ニ於テハ則チ第一種ノ方法ニ依リ第二種ハ則チ普國ニ等  
 於テ之ヲ實行シ第三種ハ則チ伊太利「リユニテブルヒ」「レウエン」等諸國ニ於  
 テ之ヲ行ヒ西班牙ニ於テハ専ラ第四種ノ方法ニ依リテ之ヲ實行セリ看守學校  
 設立ノコトハ普國等ニ於テモ之カ必要ヲ論スル者亦少カラス尤モ「クロ」ネ氏  
 ノ如キハ之ニ反對スルノ意見ヲ有ス氏ノ所說ニ曰ク

(前略)蓋シ紀律ノ張弛ハ看守ノ良否ニ關スルコト大ナルカ故ニ成ルヘク適當  
 ノ人物ヲ得テ其職務ヲ熟練スルニ至ラシメンコト固ヨリ必要ナリト雖モ而  
 モ必スシモ彼ノ伊太利等ニ於テ實行スル所ノ如ク特ニ看守學校ナルモノヲ  
 首府羅馬ニ設ケ幾多ノ時日ト少カラサル費用トヲ此ニ費ヤシ若干ノ看守候  
 補者ヲ卒業セシメテ之ヲ各監獄ニ分遣スルノ方法ヲ用フルニモ及ハサルヘ  
 ヲト信ス(中略)看守學校ノ旨趣若シ果シテ看守學士或ハ看守博士ヲ養成セン  
 ト欲スルニアラストセハ寧ロ最初適格ト信認スヘキ人物ヲ精選シ之ヲシテ

直チニ生産的實務ニ從事セシメ其傍ニ於テ漸次之ヲ教養シ終ニ以テ忠實老練ナル良看守タルニ至ラシムルヲ得策ナリト信ス之ヲ要スルニ予ノ主義トスル所ハ成ルヘク少數適格ノ看守ヲ用ヒテ實務ノ舉ルヲ期シ務メテ冗費ヲ省キ冗員ナカラシメ適格ノ看守ニ向ヒテハ出來得ル限り多クノ俸給ヲ給與セント欲スルニ在リ俸給ヲ以テ彼ノ繁勞劇甚ノ職務ニ從事スル所ノ看守ニ備ハランコトヲ求ム是レ我監獄社會ノ通弊ニシテ實際亦止ムヲ得サルノ事情アリト雖モ而モ此通弊ノ去ラサル間ハ如何ニ試験ヲ嚴ニシ如何ニ教習訓練ノ方法ヲ精密ニスルモ到底豫期ノ目的ヲ達スルコト能ハサルヘキナリ寧ロ學校教習ノ費用ヲ移シテ之ヲ俸給増加ノ費途ニ充ツルコト却テ人物養成ノ實ヲ得タルモノナリト謂ハサルヲ得ス概括シテ之ヲ言ヘハ予カ本問ニ對スルノ意見ハ實ニ左ノ如シ

第一看守志願者ハ成ルヘク現役滿期ノ下士兵卒等ノ内ヨリ之ヲ採用スルヲ要ス

第二最初六箇月ハ見習トシテ之ヲ用ヒ實務ニ從事セシメツツ尙ホ事ニ就キ

物ニ當リテ懇懇諭示教導スル所アルヲ要ス

第三見習試験ノ期間ニ於テ到底適任ナル看守ト爲ルヘキ見込ナキ者ハ容赦ナク之ヲ解職スルコトヲ要ス

我看守採用規則ノ規定スル所ニ據レハ看守ハ適當ノ資格第二條ヲ備ヘタル志願者ノ内ニ就キ總テ看守候補證書ヲ有スル者並ニ曾テ看守長タリ試験ノ上其合格者中ヨリ之ヲ採用スルモノトス試験ハ體格及ヒ技藝ノ二科ニ別ツ(第三條第四條其所謂技藝ト稱スルモノハ普通輕易ノ筆算及ヒ刑法刑事訴訟法裁判所構成法監獄則監獄則施行細則等ノ大要ニ通スルノ能力トス)看守以テ觀レハ各該試驗ニシテ嚴守試驗スルヲ必要トセザレモノ如シ然レトモ看守試驗合格者ヲ任用スルノ注意アル而シテ新ニ採用スル看守ハ先ツ教習シテ後本務ニ從事セシムルヲ要ス(三十一年十一月內務省訓令第三十號看守教習規則)教習ノ期間ハ二箇月トシ一定ノ學科及ヒ實習第三條ノ外尙ホ見習トシテ教官書記又ハ看守長又ハ先任看守ノ指導ヲ以テ實務ニ膺ラシムルモノトス但シ教習ノ方法順序ハ監獄ニ因リテ各其趣ヲ異ニスルモノノ如シ

看守教習ノ順序ハ凡ソ下記ノ如クナルヲ要ス最初先ヲ專ラ獄務ニ直接必要ノ規程ヲ教習シ次ニ受持看守工場又ハ監房ノ助勤トシテ其指導ノ下ニ實務ニ就カシメ次ニ看守長特別監督ノ下ニ門衛夜勤訊問押送裁判所立番等ノ職務ニ獨立從事セシメ其終ルヲ待テテ最後ニ庶務ニ屬スル諸般ノ事項例ヘハ名籍行狀錄報告表等ノ記録領置搜檢洗濯押送等ニ關スル手續若クハ監房配置食物配與等所謂内勤ノ事務ヲ習練セシムルモノトス

授業手、女監取締押丁等ニ付テハ別ニ一定ノ採用規則ナルモノアルヲ見ス但シ女監取締ハ行狀善良ニシテ四十歳以上若クハ監獄官吏ノ婦女ナル者ヲ必要トス

### 第六節 俸給及ヒ給助

看守ノ俸給ハ之ヲ七級ニ分チ九圓以上十五圓以下ト爲ス但シ教習中ノ看守ハ六圓乃至八圓ヲ給ス判任官以上ノ官職ニ在リタル者及ヒ巡查又ハ看守ノ精勤證書ヲ有スル者ニアラスシテ看守ニ任命セララル者ノ月俸ハ十圓以下トス

看守給助ハ退職給助傷痍給助死亡給助療治料祭祀料ノ五種ニ別チ勤續滿五年以上ニシテ退職スル者ニハ一時之ヲ給シ滿十年以上ニシテ退職スル者ニハ終身之ヲ給スルモノ、退職給助ト稱シ職務ノ爲メ負傷スル者ニ終身之ヲ給スルモノヲ傷痍給助ト稱シ職務ノ爲メ重傷死ニ至リタル者及ヒ負傷後其傷痍ニ因リテ死亡シタル者又ハ職務上傳染病ニ罹リ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ給スルモノヲ死亡給助ト稱シ職務ノ爲メ負傷シ若クハ傳染病ニ罹リタル者ニ之ヲ給スルモノヲ療治料ト稱シ奉職中死亡スル者ニ之ヲ給スルモノヲ祭祀料ト稱ス而シテ其額ハ種類及ヒ情狀ニ因リテ相同シカラス則チ退職給助ニ在リテハ(一)勤續滿五年ノ者ハ一時金二十圓乃至三十圓ノ額ヲ給シ滿六年以上九年マテハ一年毎ニ金三圓乃至五圓ヲ増給シ(二)勤續滿十年ノ者ハ一年金二十五圓以上三十圓ノ額ヲ給シ滿十一年以上ハ一年毎ニ金五十錢乃至一圓ヲ増給ス傷痍給助ハ分チテ二等ト爲シ(一)等傷ハ終身不具ト爲リ自白ハ一年金三十圓乃至四十圓ヲ給シ(二)等傷ハ終身不具ト爲リ自白ハ一年金二十圓乃至三十圓ヲ給ス死亡給助ハ(一)寡婦又ハ相續ノ孤兒アルトキハ一年金三十圓乃至五十圓(二)寡婦又ハ孤兒ノ給助ヲ受クル



若シテ祖父父母又ハ二十歳未満ノ兄弟姉妹ニシテ死者ニ依リ從奉生計ヲ爲セシ者アルトキハ一時五十圓乃至百圓ニ相續者タル孤兒滿二十歳ニ廢篤疾ナルトキハ年金ヲ廢止スルニ際シ一時金五十圓乃至百圓ヲ給ス療治料ハ傷撲又ハ病症ノ輕重ニ因リ同シカラヌ祭祀料ニ在リテハ(一)奉職一年未満ニシテ死亡セル場合ニハ一時金十圓乃至十五圓滿一年以上一年毎ニ金三圓乃至五圓ヲ増給シ(二)職務ノ爲メ死亡セル場合ニハ前項ノ外一時金五十圓乃至百圓ヲ給與スルモノトス(十五年七月太政官達第四十一號巡查看守給助例參觀其他職務上特ニ精勤セル場合ニ於テハ豫算定額内ニ於テ相當ノ賞與金ヲ給スルアリ尙ホ又(二)反獄ヲ鎮制スルニ當リ其功勞著シキ場合(三)自己ノ監守ニアラサル在監人ニシテ逃走スル者ヲ捕獲シ其功勞著シキ場合(四)監獄内ノ水火風震及ヒ流行病ニ付キ其功勞著シキ場合及ヒ(四)自己ノ危難ヲ顧ミス在監人ノ性命ヲ救護シタル場合ニ於テハ警察賞與規則二十一年十月內務省訓令第二十一號ニ據リ功勞ノ適度ニ應シ金五十圓以下ヲ賞與スルノ規定アリ

瘴氣ノ爲メ職務セサルコト六十日ヲ踰ユル者及ヒ私事ノ故障ニ因リ職務セザ

### 校外生規則摘要

- 一 講義録、毎月二回發行シ滿一今年ヲ以テ卒業トス
- 一 講義録ハ之ヲ三部ニ分ツ其發行定日左ノ如シ
  - 第一部 毎月 五日 二十日
  - 第二部 毎月 十日 廿五日
  - 第三部 毎月 十五日 三十日
- 一 月謝金ハ全部壹圓、各一部四十錢トス但シ入學金ヲ要セス
- 一 校外生ハ本校講談會、討論會ニ出席傍聴スルコト及ヒ本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得
- 一 校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試験ノ上校內生ニ等級ニ編入セラルルコトヲ得
- 一 校外生ハ講義録中ノ疑義ニ付キ質問スルコトヲ得問題ハ一問毎ニ別紙ニ認メ且一問毎ニ返信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス
- 一 三ヶ月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス
- 一 月謝ハ東京飯田町郵便支局拂和佛法律學校會計係宛トスヘシ

明治廿二年十二月九日 内務省許可

明治三十三年十月廿六日印刷

明治三十三年十月三十日發行

東京市四谷區四谷仲町三丁目六番地

編輯兼發行者 小田幹治郎

東京市芝區四ノ久保明舟町一丁目

印刷者 金子鐵五郎

東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地

印刷所 金子活版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

指定

(電話番町百七十四番)